

国民性とコミュニケーション

(原子力発電に対する態度構造と発電側の対応のあり方)

National Character and Communication
(Attitude toward Nuclear Power Plant and its Public Relations)

林 知己夫 (Chikio Hayashi)* 守川 伸一 (Shinichi Morikawa)†

要約 原子力発電に対する態度構造を明らかにし、その理解を得るためには、発電側がいかに対処すべきであるか、について研究することを目的とする。従来は、原子力発電に対する態度と発電側の対応を直接的に関連付けようとしているのに対し、本研究では、原子力発電に対する態度を取り巻くさまざまな態度（例えば原子力イメージ、原子力認識・知識、エネルギー問題・環境問題に対する態度、不安感、リスク感覚、さらに、影響を与える科学文明観、等）、これらに深く係わる社会的、政治的態度、より根源的に見た日本人の国民性（その特色とする中間的回答をする好み、信頼感、リーダーシップ、超自然現象・お化けに対する態度、いわゆる迷信との心の係わり合い）を加え包括的に構造分析を施し、原子力発電に対する態度の内に包むものを明らかにし、これと発電側の対応のあり方を総合的に考察することにした。この結果、原子力発電に対する態度として、全くの無関心層（13%）、強く好意的な態度を持つもの（11%）、強く非好意的な態度を持つもの（9%）、その他、好意的なもの（12%）や、非好意的なもの（5%）があり、残りとして中間的なもの（50%）があることが分かった。強く好意的、強く非好意的な層は、いわゆる日本的な性格の乏しい合理的思考の層であり、残りの無関心層を除く67%は、普通の日本人であることが分かった。この層は、一度事故が起これば否定にまわることが考えられる。この層への対応は、事実としての安全性の説明、情緒的日本人的対応の重要性にあることが見出された。

キーワード 原子力発電、態度構造、数量化 III 類、発電側の対応、中間的態度、情緒的対応、日本人の国民性

Abstract The attitude structure toward nuclear power plant is analyzed with the attitudes toward relevant matters, for example image for nuclear power, knowledge of nuclear power, attitudes toward energy and environment, anxiety about various matters, cognition of risk, social and political attitudes and Japanese national character. Six types are revealed, that is to say, indifference group (13%), strongly favorable group (11%), strongly unfavorable group (9%), fairly favorable group (12%), fairly unfavorable group (5%), and intermediate group (50%). Strongly favorable and unfavorable groups are similar in some points and different in other points, for they are both rational whereas the former is optimistic in the attitude toward science and technology and less interested in environmental problems, and the latter is pessimistic in the attitude toward science and technology and extremely sensitive to environmental problems. The intermediate group has so-called Japanese-like characteristics. It is shown that the emotional persuasion and that based on fact presentation are particularly desirable for this group.

Keywords nuclear power, nuclear power plant, attitude structure, quantification method, emotional persuasion, intermediate group, national character

*統計数理研究所名誉教授 社会システム研究所研究顧問

†社会システム研究所

1. 問題解明のための調査と分析のあり方

原子力発電に対する一般の人々の態度に関する調査研究はかなり多数あるが、その態度内容を深く分析したものは殆ど見当たらない。「発電側が、原子力発電の理解をどのような方法でもとめるのが望ましいか」についての立ち入った研究も殆ど見当たらない。つまり、いずれの側にあっても、一通りの調査はあるものの一步突っ込んだ情報を与えるものが乏しいというのが現状である。そこで本研究においては、その理由はどこにあるかを探ることから始めた。考察の結果、原子力発電に対する態度は、原子力に対する直接的な態度のみではなく、それを包むあるいはそれを支える多くのものに対する態度と関連しているという立場から問題を総合的に解明する必要があることに気が付いた。このために、一見無関係に見える事象に対する態度もあわせとりあげてみるのが重要であるとの作業仮説をたて、社会調査データとその分析を通して探索的に問題の核心に迫るという立場をとった。

発電側は、一般の人々に対してどのように対処すべきかの問題についても「きめ細かい」分析を行うことを計画した。

このために、社会調査の対象として関西電力の供給エリア常住の18才以上79才以下の一般の人々を対象とすることにした。この対象集団から、確率抽出によりサンプルを定め調査を実施し、データを得た（詳細は付録1参照）。回収サンプル市部 1060（回収率76%）、郡部440（回収率77%）であった。市・郡部で抽出率をかえたが、これは郡部でのサンプルの大きさが過小にならぬようにしたからである。全体の集計ではウェイトを重んじ、偏りのない全体推定が可能のようにした。

調査票の構成は、前に示した立場から、原子力発電に対する態度を取り巻くいろいろの態度（例えば原子力イメージ、原子力認識・知識、エネルギー問題、環境問題に対する態度、不安感、リスク感覚、さらに、それらに影響を与える科学文明観、等）、これらに深く係わる一社会的・政治的態度、より根源的にみた日本人の国民性（その特色とする中間的

超自然・お化けに対する態度、いわゆる迷信との心の係わり合い）を加え、さらに発電側がどう対処したらよいかを探るための項目を交え調査票を構成した。質問の配列は、調査実施の観点から調査が支障なく行えることを念頭に入れ、質問の前後による影響を少なくすることを考えに入れて決定した（付録2参照）。（6）

こうして得られたデータに対して、包括的に構造分析を行い、原子力発電に対する態度の内に包むものを明らかにし、これに対する発電側の対応のあり方を総合的に考察することにした。構造分析においては、質的データの関連性を明らかにするための方法、数量化Ⅲ類—あるいはパタン分類の数量化—を用いている。（1）（2）（4）（7）（8）（9）この方法は、データの中に隠されている本質的情報を探索的に知ろうとするものである。「データの多次元的関連性」の「渾沌」の中から筋目の立った情報を探り出すことを志向するもので、複雑で一見あや目のわからぬものから見透しのよい知見を得しめるものである。こうした筋が見えてくると複雑に見えたこともすっきり整理されて、眼前の鱗が落ちたようにもののあや目が見え出してくることになる。

首題に入る前に調査の概貌を以下の分析の基礎知識として重要に思われるものをまとめておこう。

2. 調査結果の概貌

質問の単純集計の結果は、付録2に示したとおりで、一問毎の回答はとくに説明の必要はないが、特に重要と思われるものは以下にまとめておこう。

2.1 「危険なこと」として何を思い浮かべるか。

質問は次のとおりである。

問12 私達が社会生活を送っていくうえで、いろいろ「危険なこと」が考えられます。次のような危険といったら何を浮かべますか。（ア）（イ）（ウ）（エ）のそれぞれについて具体的にお答えください。

(エ) いままでお答えいただいた中で、あなたが一番危険だと感じているものを1つだけお知らせ下さい。

◆交通災害

交通事故 (ア)	2
“ (イ)	2 3 9
“ (ウ)	4 3
“ (複合)	1 8 2
航空機事故	4

◆天災関連

天災	3 6
台風	1 2
風水害・雪害	1 0
地震	1 3 8
火山・噴火	2
落雷	2
異常気象	1

◆環境汚染

環境汚染・自然破壊	2 3
大気汚染	6
水質汚染	6
森林破壊・農地荒廃	6
酸性雨	2
地盤沈下	1
開発による水害	1
オゾン層破壊	8
生態系の変化	2

◆公害関連

公害	2
車・トラック排気ガス	3
ゴミ問題	2
食品・残留農薬	3

◆病気関連

病気	3
エイズ	1
薬害	4
医療事故・医療ミス	2
スポーツによる身体障害	1

◆火災・ガス関連・建築物災害

火災・火事	5 8
ガス	6
害虫 (白アリ)	1

◆人間関係

人災・人為的災害	1 3
夜おそい一人歩き	1
通り魔・犯罪	2
暴力団・暴走族	3
人間関係トラブル	4
いじめ・圧力・干渉	2

◆戦争関連

戦争	2 5
----	-----

◆その他

会社の倒産	1
工作中転落・ケガ・感染	3
コンピュータ制御の事故	1
放射能汚染	2
原子力・原発・原子炉	1 3
避難場所がない	1
災害時パニック	1

この設問で回答を得ているのは、884件であった。

一番危険だと感じていることがらのトップには交通事故で、466件が挙げられていた。全体の約53%である。2番目に多い回答を得たことがらは、地震で38件、全体の16%である。

一番危険だと考えている項目で「放射能汚染」が2件、「原子力・原発・原子炉」13件の回答を得た。交通事故や地震に比較し、非常に少ない数である。

表1 一番危険を感じる事

問23 つぎにあげる事故や事柄についておたずねします。
それぞれについてどの程度不安を感じていますか。

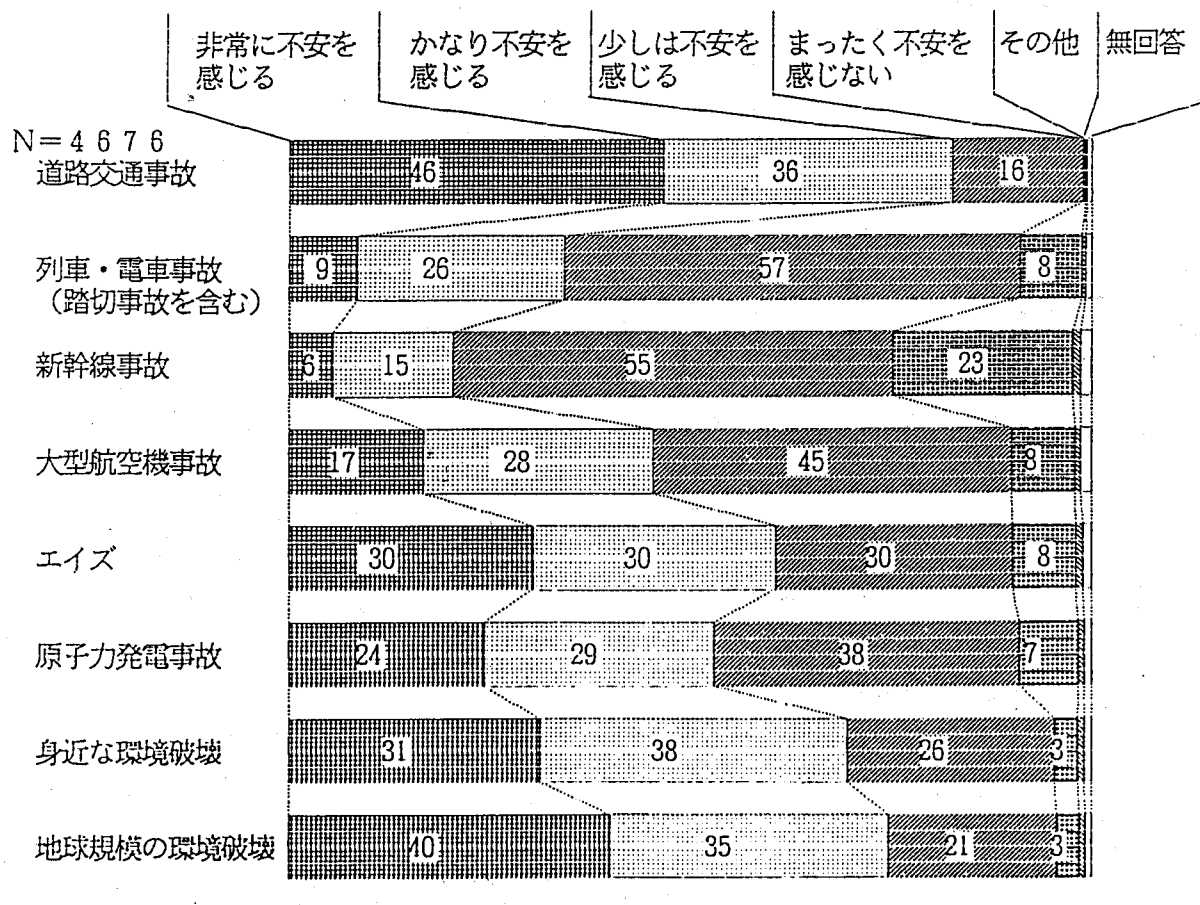


図1 事故や事柄に不安を感じる程度

(ア) 自然災害

(イ) 自分ではどうすることもできなくて、思いがけなくまき込まれる人為的災害

(ウ) 自分がしたいことをしたり、しなければならぬことをする時に、起きるかもしれない人為的危険

(エ) いままでお答えいただいたものの中で、あなたが一番危険だと感じているものを一つだけお知らせください。

ここで、特に「(エ) いままでお答えいただい

たものの中で、あなたが一番危険だと感じているものを一つだけお知らせください。」というものについて述べよう。詳しくは表1のとおりであるが交通事故が466で圧倒的に多く、自然災害が166である。環境汚染55、原子力・原発・原子炉は少なく15、エイズに到っては1であった。自由回答として現われるものは、普段強く感じていることがあらわれるもので、原子力関係やエイズは身近なものとして危険を感じていることが少ないことが分かる。しかし、この質問のずっとあとの問23で「つぎにあげる事故や事柄」でどの程度不安を感じるかを、

道路交通事故, 列車・電車事故, 新幹線事故, 大型航空機事故, エイズ, 原子力発電事故, 身近な環境破壊, 地球規模の環境破壊の項目をあげつつ質問した。図 1 にその詳細を示すが, かなり不安を感じると非常に不安を感じるを加えたものをみると道路交通事故 81%, 地球規模の環境破壊 75%, 身近な環境破壊 69%, エイズ 60%, 原子力発電事故 53%, 大型航空機事故 45%, 列車・電車事故 35%, 新幹線事故 21% となっている。自由回答の場合と異なるものにエイズ, 原子力発電事故がある。地球環境破壊も身近な体験や身近な人々の体験からではなく, エイズ, 原子力発電事故とともに, マスコミによる情報に基づくものと言えよう。普段は感じていないが, 事柄が提出されれば, 不安をかなりあるいは強く感じてくることになる。この点に注目することが大事である。新幹線に乗っている人は多いし, 人身事故のないことは体験と共にその不安感が少ないことに示されている。原子力発電事故の大きいものは日本にないとしてもその事例はあるし, その事故の被害の絶大なことは承知しているので, 不安がかなり高く出ていると考えられる。エイズの不安は, 一般の人では一応そのおそれはないとしても (普段は感じていない), 言われてみればいつ身近かにあらわれ身にふりかかることがあるかも知れない隠湿な性格に不安を感じているのである。

2.2 原子力イメージ

原子力発電を考えると, 日本人においては原子力イメージが大きな働きをしていると考えてよからう。これは, 原子爆弾を落とされ, 一般の人々が後世まで続く「被爆」という恐るべき影響を受けたからである。この点おそらく加害者たるアメリカはもとより, 他の国々とも異なるであろう。

自由回答でたずねた。回答の多いところをあげると次のようになる。

エネルギー・燃料	7 2	
電気・電力	5 1	
発電・発電所	3 6 9	計 4 9 2
戦争	4 2	

原爆	2 3 5	
核兵器・核実験	7 1	計 3 4 8
事故・爆発	2 0 7	
放射能・放射能汚染	1 9 0	計 3 9 7
危険・不安	6 6	
環境汚染・公害	2 2	計 8 8

悪いイメージが 8 3 3 出ている。全回答 1 1 3 8 のうち, 7 3 % を示している。詳細は表 2 のとおりである。

2.3 環境問題への関心

国内, 国外や地球全体の環境問題についての報道に関心をもつ率は, 「関心がある」 41 %, 「すこし関心がある」 48 % で 9 割弱の人が環境問題について関心を持っており, 高い比率である。

男女では差がみられ「関心がある」と回答した人は男性 48 %, 女性で 35 % で関心率は男性のほうが高い。年齢別では 35 歳以上のほうが 34 歳以下よりも関心が高い。

ここで注目されるのは, すこし関心があるという表現で, これが全体において関心があるよりやや多い。おそらく日本人の中間的回答の好み⁽³⁾⁽⁵⁾⁽⁸⁾によるものと思われるが, この二つを加えると 90 % 近くあり, 環境問題は常識どおり無視できぬ問題となっている。詳細を図 2 に示そう。

2.4 科学技術と科学文明観

まず, 科学技術の人間社会にもたらしたプラスとマイナスの面をたずね, こうしたプラス・マイナスを念頭におかせておいて, 結局のところ, プラス面とマイナス面を気持ちの上で秤量する試みをした。質問 16 を参照されたい。図 3 をみよう。

この方法は日本人の気持ちをよく表現する方法として常用されるもので「おはじき法」⁽³⁾⁽⁸⁾と呼ばれるもので心理測定法で言う恒常和法 (constant sum method) に呼応するものである。ここでは, 「おはじき」の代わりに「シール」を用いている。日本人の好みとしていずれが一方に 2 個, 3 個をおく

18 「原子力」といったら何を連想しますか。 自由回答結果（回答者総数は1138）			
エネルギー・燃料	72	エネルギー	36
		「未来の」「大切な」	
		エネルギー等「プラ	
		ス面」を表現したもの	33
		燃料	3
電気・電力	51		
発電・発電所	369	発電・発電所	363
		（美浜・福井と限定したもの各1を含む）	
		敦賀・東海	1
		東海村	1
		水力発電	1
		ダム	1
		原子炉	2
資源	4	（「限りある資源」、「日本の資源」、 「省エネ」、「省資源」各1）	
必要不可欠	2	（「必要不可欠」、「避けられないもの」各1）	
科学技術の発達等	15	科学技術の発達	3
		開発	1
		文明の利器	1
		快適な生活	1
		生活の向上	1
		未来	1
		どんどん伸ばすべきもの	1
		宇宙科学	1
		ロボット	4
		原子衛星	1
医療	5	医療	4
		レントゲン	1
戦争	42	（「第二次世界大戦」と限定したもの1を含む）	
原爆	235	原爆	205
		広島・長崎	12
		広島	11
		長崎	2
		きのこ雲	1
		死の灰	2
		原爆ドーム	1
		平和の鐘	1
核兵器・核実験	71	核兵器・核実験	22
		潜水艦	36（「ノーチラス」 3を含む）
		空母	6
		核実験	4
		第五福竜丸	1
		あかつき丸	2
事故・爆発	207	事故	64
		チェルノブイリ	118
		スリーマイル島	3
		美浜原発事故	2
		爆発	20
故障	4		
放射能	185	放射能	102
放射能汚染		放射能汚染、放射能もれ56（「放射能火災」 1を含む）	
		被爆、被爆者	10
		後遺症	1
		白血病等	13
		（病気2、がん4、白血病6、身体に害1）	
		死	3
放射線	5		
廃棄物・処理	10		
危険・不安	66	（「安全性」2を含む）	
環境汚染・公害	22	環境汚染・破壊	15
		公害	5
		災害	1
		酸性雨	1
		「必要性と危険性」 に言及したもの	19（「神と悪魔」と表現したものあり）
平和利用	8	平和利用	7
		（「平和利用のエネルギー」1を含む）	
		平和	1
安全に利用	2		
これ以上ふやさない	2	（「これ以上ふやさない」、 「今後の発電所の増加率」各1）	
反対運動	4	（「寄港反対」1を含む）	
核アレルギー	1		
グリーンピース	1		
建設問題	1		
むつ・船	42	（「むつ」24、「船」18）	
プルトニウム・ ウラン等	36	（「プルトニウム」26、「ウラン」8、 「元素235」2）	
核	21	（「核融合」、「核崩壊」各1を含む）	
「もんじゅ」	2		
以下各1 「イラク」、「ラテン」、「アメリカ」、「旧ソ」、「世界地 図の変化」、「物理学」、「アインシュタイン」、「ガイガーカウンター」 、「巨大」、「永久性」、「パトリオット」、「ターミネーター2」 、「大和」、「鉄腕アトム」、「TVCM」、「水害・台風・地震」、 「不用の物」、「車」、「魚」、「パワー爆発」、「原子力」			

表2 問18 「原子力」といったら何を連想しますか。 自由回答結果 （回答者総数1138）

問9 最近は、国内や国外、地球全体の環境問題がよく報道されています。
あなたは、この問題にどの程度関心がありますか。

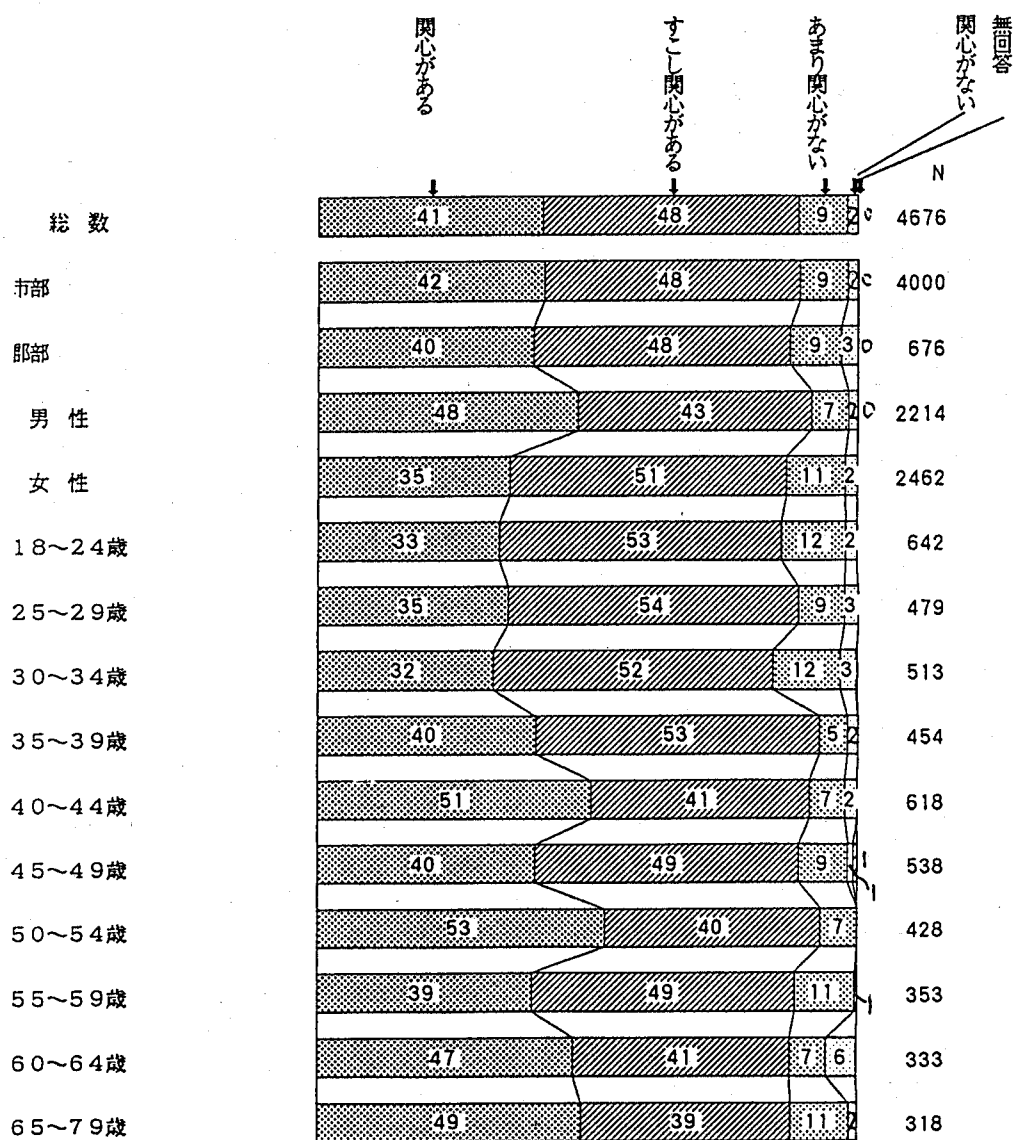
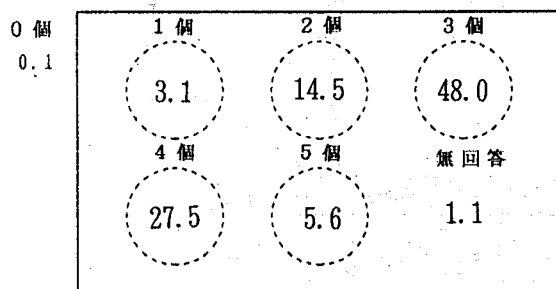


図2 環境問題関心

- (3) 科学技術の発達が人々の生活に与えたことには、プラス、マイナスの両面があると思います。
 科学技術の発達が人々の生活に与えたプラス・マイナスについて、あなたのお考えをおきします。
 ここにある5枚のシールを、あなたの気持ちに応じてプラス・マイナスの各々にふりわけ、下の枠内にはりつけてください。

N = 4 6 7 6 科学技術の発達は人々の生活に
 プラスである



N = 4 6 7 6 科学技術の発達は人々の生活に
 マイナスである

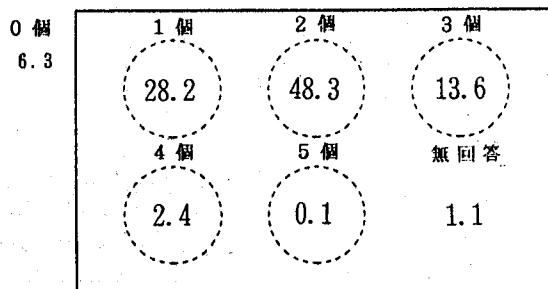


図 3 プラス・マイナスの秤量

—バランスをとりつつ考えることを意味する—回答
 がここでも多く 62%を示している。が、より詳しく
 みるとプラスの方にやや多く、マイナスの方にや
 や少ないという傾向がみられる。プラスの面に3個
 以上の肯定するものは81%となっている。科学技
 術は、ややプラスの面を多く有しているというのが
 日本の常識となっていると見られる。

2.5 経済向上と自然保護

今日のトピックとして必ずもち出される問題であ
 る。問30として次の形できいてみた。判断し難い
 問題なので「おはじき法」で「心を探る」ことにし
 た。

問30 電力の供給をふやせば、経済のゆとりや快
 適な生活ができるが、公害や環境汚染、自然破壊が
 それに伴います。電力の供給をふやさなければ、公
 害や環境汚染、自然破壊が抑えられますが、経済力
 が低下し生活の不便を我慢しなければならなくな
 ります。この点についてあなたのお考えをきかせてく
 ださい。

ここにある5枚のシールを、あなたの気持ちに応
 じてA、B2つの意見にふりわけ、下の枠内にはり
 つけてください。

この結果は図4に示すとおりであり、A、Bいづ
 れかの意見に2個、3個をおくものは60%あまり
 であるが、このときは、前の場合に較べ一応バラン
 スをとった回答が多くなる。Aに3個以上おくもの
 は39%、Bに3個以上おくものは58%となってい
 る。ややBに重みがかかり生活の不便を我慢する方
 が多く見られるが、事態が現実化し我慢が予想を上
 まわるとBに3個をおく32%は2個以下に動いて
 しまう可能性があり、結果的にAの意見が多数にな
 るということを示している。一方の意見に3個をお
 くもの（つまりもう一方の意見に2個をおくもの）
 は、ある行動が採られその結果マイナス面が多く現
 われてくると他方へたやすく移って下うものである
 ことを暗示しているのでこの点注意しなければなら
 ないものである。(10)

一方に2個、3個おくもの、一方に1個、4個お
 くもの、はっきり割り切って5個をおくものの平均
 を示すと図5のようになり、「あいまいな回答」の傾
 向は明瞭に読みとれる。

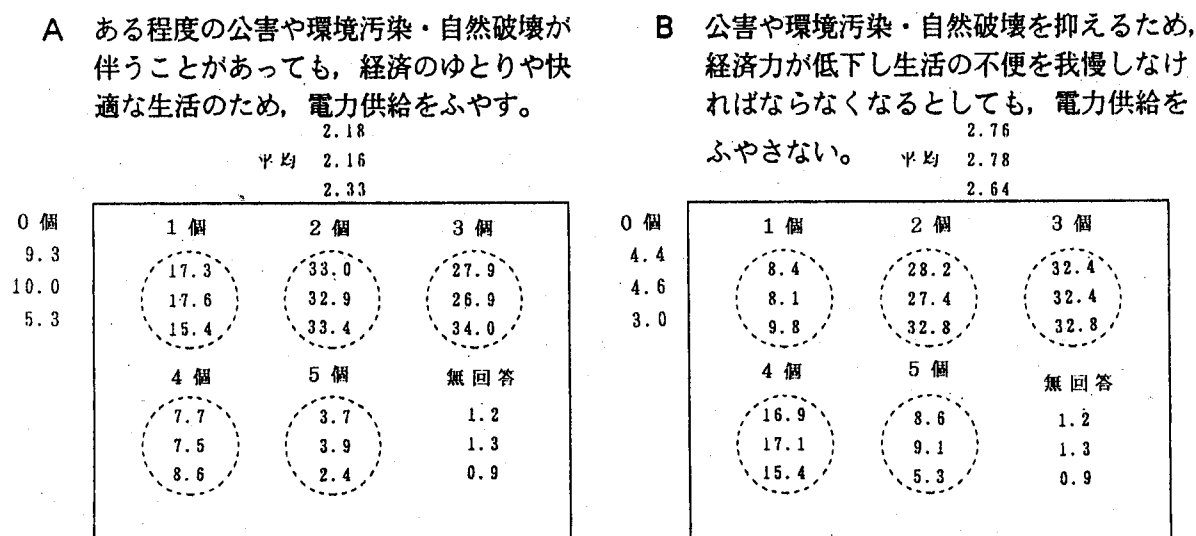


図 4 経済向上と自然保護

2.6 企業の姿勢

つぎに、社会的影響のある企業の一般の人々に与えるイメージは企業の信頼性に大きな影響を与えるもので、次のような形でそれが計られている。質問としては、二つの航空機会社A、B、両社のモットーの好感の度合という形で把えてみた。質問文は次のとおりである。

問 2 4 次にあげるのは、航空機会社 2 社の旅客機の安全性についてのコメントです。A 社、B 社それぞれのコメントについて「まったく共感できない」は 0 点、「完全に共感できる」を 10 点として、0 点から 10 点の間で点数をつけてください。

A 社：わが社の飛行機はこれまで、墜落等の大きな事故を起こしたことがありません。この実績が物語るように、わが社の飛行機は絶対に安全です。

B 社：飛行機事故がひとたび起きれば、大変なことは重々承知しています。わが社では、絶対事故が起きないように細心の注意を払い、万全の努力をしています。

結果は図 6 に示すが、B 社の方がより大きな共感を呼んでいることがわかる。6 点以上の比率は B 社 72%、A 社 19% である。10 点の秀は B 社 22

%, A 社 2%, 8 点～9 点の優は B 社 31%, A 社 7% と大きな開きを示している。こうした態度は、「力があると見られているもの」の低姿勢（「稔る程頭を垂る稲穂かな」という昔からの俗諺がある）や「慇々として事に当り、孜々として努む」ことが好感を得ていることと見合うものであろう。このことは次のこととも関連が深い。航空機事故をおこした場合の社長の態度のいずれがよいかを日本人の国民性調査で調査したことがあるが「何はともあれまずあやまってまわる」ことの方が「直ちに科学的事故究明に努める」より共感を呼んでいることが示されていた（少なくともアメリカではこうした調査は「謝まれば罪は全部その会社のものになる」ということがあるので一いわゆる罪状否認しなければ罪は直ちに決まるというのに近い考え方であろう一調査は不可能であった）。

ここに示されていることは、事故防止に対する「日本人に共感を呼ぶ」態度というものである。

2.7 原子力発電に対する態度

原子力発電に賛成か、反対かという発想では、日本人の現実的な心をとらえることが出来ない。こういう見方で、多くの人が考えているわけではないからである。そこで次の様な日本人にふさわしい質問

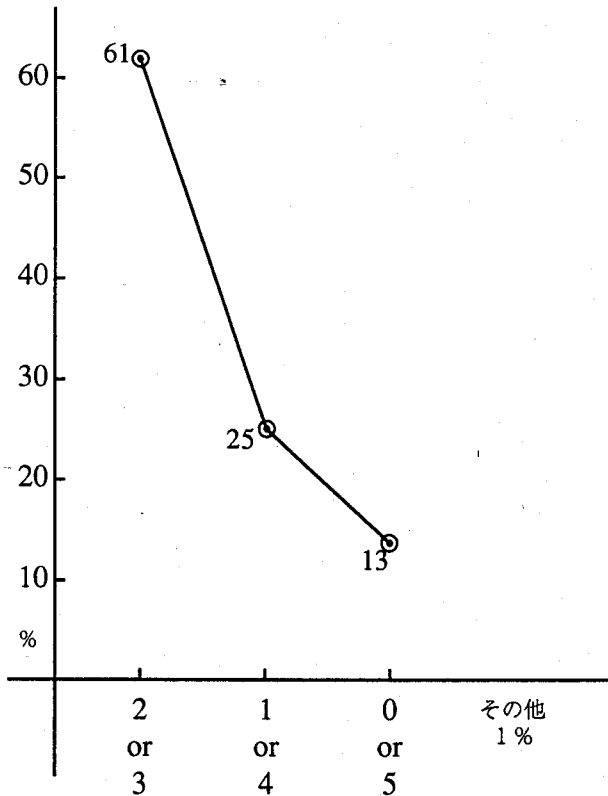


図 5 回答の傾向

を行ってみた。

問 4 0 原子力発電についていろいろおたずねしましたが、全体としてあなたのお考えに近いものをつぎの中から1つだけ選んでその番号に○をつけてください。

1. 原子力発電を利用するのがよい。
2. 原子力発電を利用するのは止むを得ない。
3. 安全な発電に頼るのがよい。
4. 原子力発電は利用すべきではない。

一番多いのは原子力発電を利用するのは止むを得ない56%、安全な発電に頼るのがよい18%、原子力発電を利用するのがよい、利用すべきでないともに12%となっている。「現実的に仕方ないではな

いか」という意見が過半数になっているのが日本人の心である。現実的に肯定的な意見は68%と2/3に達しているのである。賛成・反対という筋ではなく「できることなら他のことでやって欲しいが、現実的には原子力発電に頼るのは止むを得ない」という感覚である。こうなるとその取扱いは慎重にならざるを得ないのである。「止むを得ないから認める」のであるから、危険性に関しては十二分に配慮して欲しいという意見とみることが出来る。(表 3)

このままではこれ以上進めないで「止むを得ない」と考える層の意味するものを、原子力発電に対する好意的・非好意的の軸の上に位置付けつつ、明らかにして行くことにしよう。

なお、各発電の仕方(火力、水力、原子力、太陽光、風力、燃料電池、波力、地熱)の長所・短所(危険度、自然破壊をも含む)を示した上で、「仮にあなたが電力会社の社長さんだったら、これからの日本の発電は、どの方法を主力にするのがよいとお考えですか」という形で質問した。火力5%、水力14%、原子力19%、太陽光30%、風力1%、燃料電池3%、波力2%、地熱1%、という形で、人々の願望が示されている。

以上、調査の概貌を述べたが、これから、原子力発電に対する態度(上記の原子力発電に対する態度を含む)は、「好意的・非好意的」の1次元の軸に集約することの可能なことを示しつつ、その内に包む多次元的性格を総合的に明らかにして行くことにする。最後に、これと発電側の対応のあり方を関連付けてみることを試みる。

3. 構造分析の仕組み

前から縷々述べているように、問題を単に原子力発電に対する態度にとどまらず、この意味する内包をより明らかにするために、さまざまなものを加えて分析することにした。これは表4に示すとおりである。用いた全質問がこのいずれかへ属することになる(重複使用されたところが、ごく一部ある)。表中の左側の番号はその該当項目(領域とも言うことにする)を示す略号で、今後簡単のためこれを用いることにする。まず、各領域ごとにいわゆる1次元スケールするかどうかを検討し、1次元スケールするものはスケールとして集約された情報を用い、

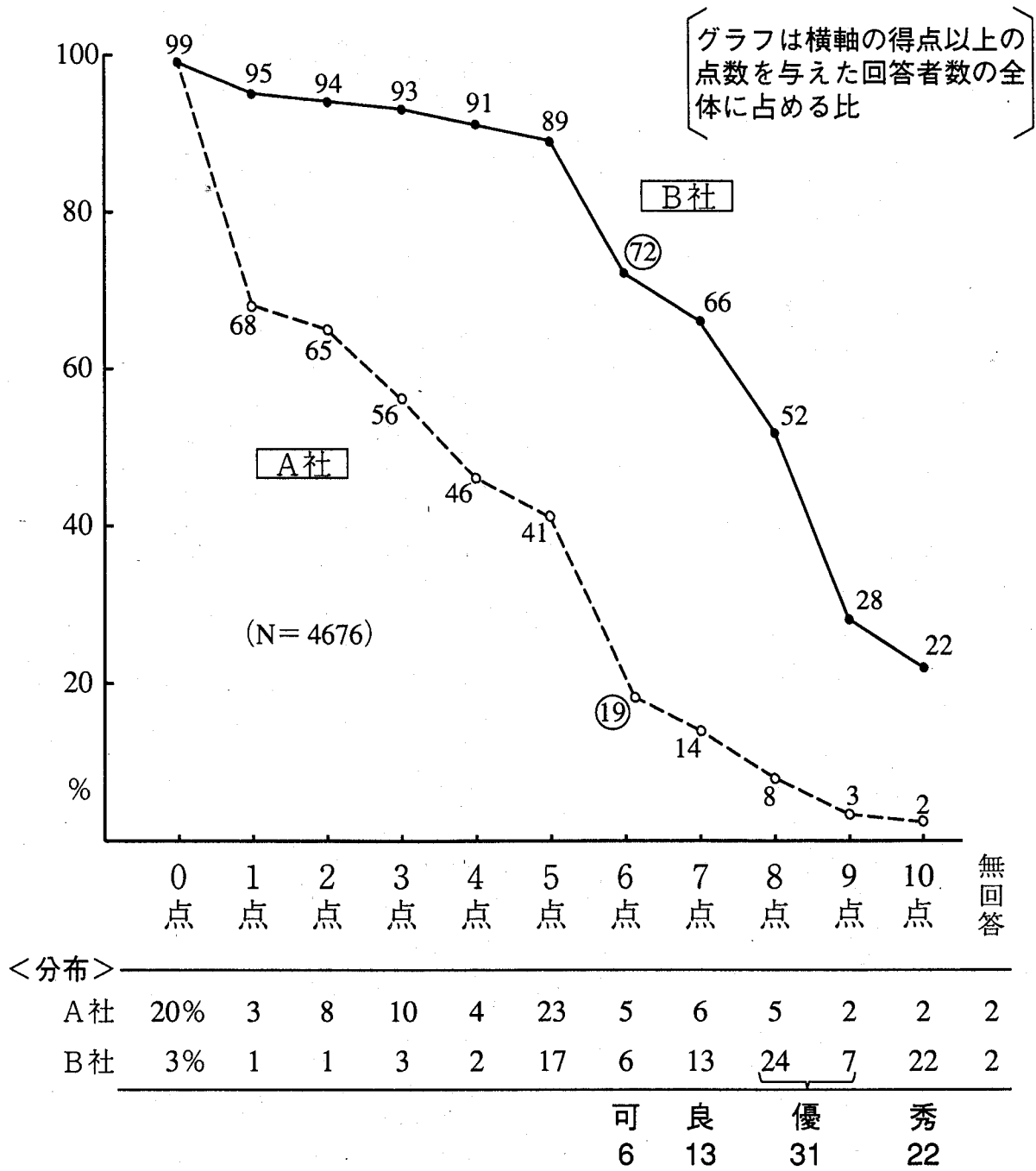


図 6 A,B 航空機会社の姿勢

	N	原子力発電を利用するのがよい	利用するのはやむをえない	安全な発電に頼る方がよい	原子力発電は利用すべきでない	無回答
総 数	4676	545 11.7	2615 55.9	826 17.7	540 11.5	150 3.2
市部・郡部別						
市部	4000	465 11.6	2255 56.4	700 17.5	470 11.8	110 2.8
郡部	676	80 11.8	360 53.3	126 18.6	70 10.4	40 5.9
性 別						
男 性	2214	335 15.1	1298 58.6	330 14.9	204 9.2	47 2.1
女 性	2462	210 8.5	1317 53.5	496 20.1	336 13.6	103 4.2
年 齢						
18～24歳	642	74 11.5	323 50.3	166 25.9	63 9.8	16 2.5
25～29歳	479	22 4.6	273 57.0	93 19.4	74 15.4	17 3.5
30～34歳	513	62 12.1	272 53.0	87 17.0	85 16.6	7 1.4
35～39歳	454	52 11.5	246 54.2	92 20.3	52 11.5	12 2.6
40～44歳	618	78 12.6	344 55.7	105 17.0	64 10.4	27 4.4
45～49歳	538	66 12.3	325 60.4	78 14.5	48 8.9	21 3.9
50～54歳	428	64 15.0	234 54.7	71 16.6	45 10.5	14 3.3
55～59歳	353	24 6.8	227 64.3	53 15.0	38 10.8	11 3.1
60～64歳	333	40 12.0	181 54.4	47 14.1	56 16.8	9 2.7
65～79歳	318	63 19.8	190 59.7	34 10.7	15 4.7	16 5.0
学 歴						
小・中卒	664	83 12.5	395 59.5	118 17.8	54 8.1	14 2.1
高卒	2467	302 12.2	1348 54.6	489 19.8	249 10.1	79 3.2
大卒	1505	158 10.5	858 57.0	214 14.2	227 15.1	48 3.2
職 業						
勤め人	1985	255 12.8	1094 55.1	374 18.8	219 11.0	43 2.2
自営	568	72 12.7	357 62.9	49 8.6	78 13.7	12 2.1
家族従業	169	36 21.3	91 53.8	21 12.4	15 8.9	6 3.6
主婦	1393	116 8.3	778 55.9	258 18.5	185 13.3	56 4.0
学生	255	30 11.8	125 49.0	70 27.5	26 10.2	4 1.6
無職	268	36 13.4	165 61.6	44 16.4	10 3.7	13 4.9
世帯構成						
1人世帯	181	15 8.3	114 63.0	40 22.1	10 5.5	2 1.1
1世代世帯	735	81 11.0	435 59.2	122 16.6	71 9.7	26 3.5
2世代世帯	2823	333 11.8	1605 56.9	461 16.3	343 12.2	81 2.9
3世代世帯	809	91 11.2	396 48.9	197 24.4	95 11.7	30 3.7

表 3 原子力発電に対する態度

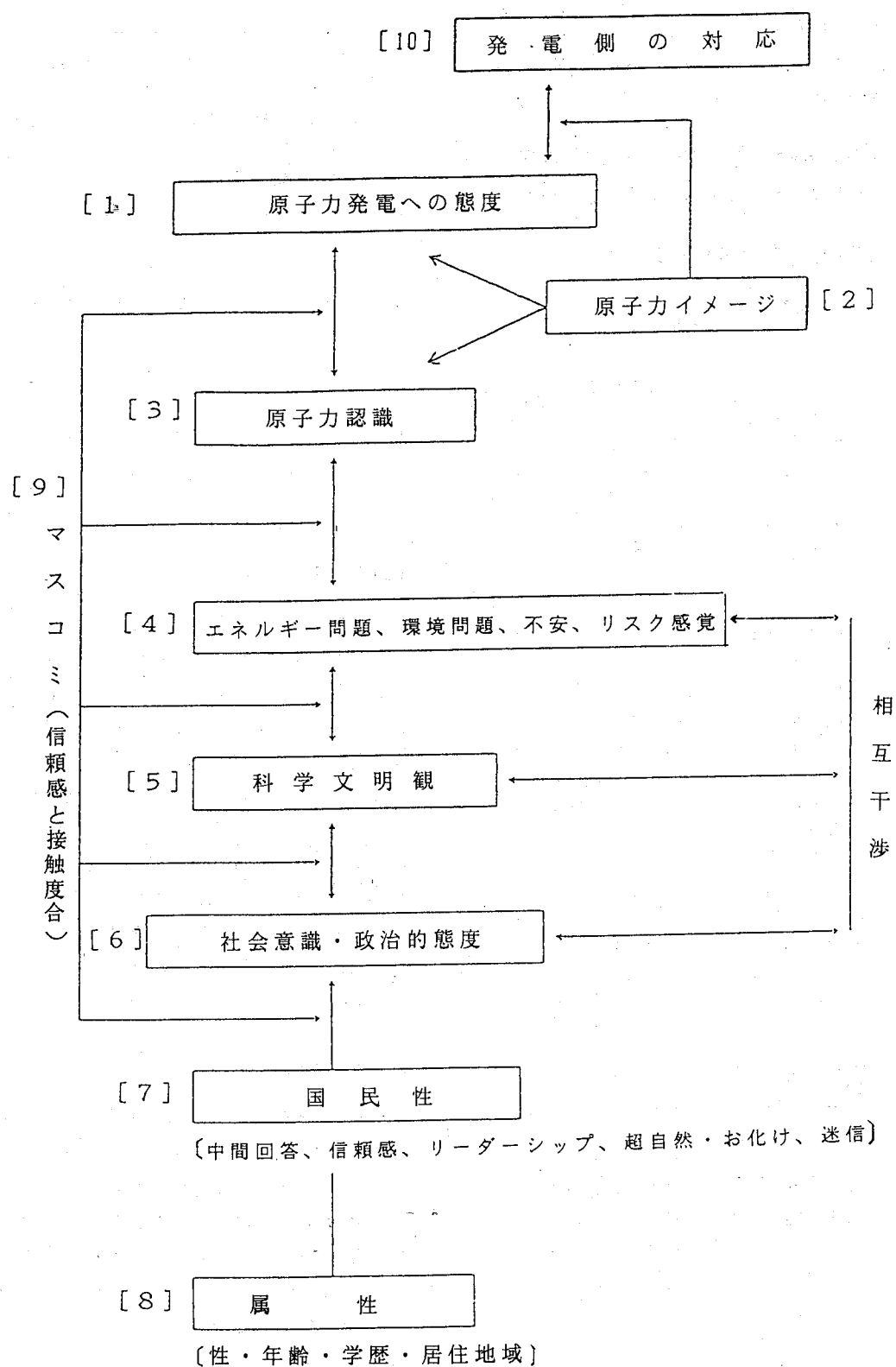


表4 原子力発電をめぐる態度構造分析の枠組みと事象の相互関連性

総合的考察に便利な形にした。

このように得られた全情報を素材として、随時数量化 III 類を用いつつ分析を行うことにする。

4. 態度構造分析の柱となる諸領域におけるスケール化とカテゴリー化

4.1 原子力発電への態度 (1)

4.1.1 用いる質問

アイテム	カテゴリー
問 2 1 ウ 原子力発電 重要度	1 重要 [1, 2] * 2 重要でない [4, 5] 3 どちらともいえない [3, NA]
問 2 2 ウ 原子力発電 有用度	1 有用 [1, 2] 2 有用でない [4, 5] 3 どちらともいえない [3, NA]
問 2 3 カ 原子力発電 事故不安	1 不安 [1, 2] 2 少し不安、感じない [3, 4]
問 3 2 最も望ましい 発電方法	1 原子力 [3] 2 それ以外 [3 以外、NAを含む]
問 3 5 「ア有益、必要 性の個数」 - 「イ無益・不必 要性の個数」	1 負 (ア<イ) 2 0 (ア=イ) 3 正 (ア>イ)
問 3 7 安全という 記事共感度	1 共感できる [1, 2] 2 共感できない [3, 4]
問 3 8 原子力の上手 な利用	1 できる 2 どちらともいえない [NAを含む] 3 できない
問 3 9 原子力発電 今後の利用	1 利用すべき 2 どちらともいえない [NAを含む] 3 利用すべきでない
問 4 0 原子力発電に 対する態度	1 利用するのがよい 2 利用やむをえない 3 安全な発電に頼る 4 利用すべきでない

	構成比	I 軸のサンプルスコア
1 とても 非好意的	13.0%	≤ -0.7
2 や や 非好意的	25.5	$-0.7 < \leq -0.2$
3 中 間	24.4	$-0.2 < \leq 0.1$
4 や や 好意的	24.0	$0.1 < \leq 0.8$
5 とても 好意的	13.1	> 0.8

表 5 原子力発電に対する態度

* [] 内数字は調査票の回答のくくり直しをした場合のものと回答カテゴリー NO.

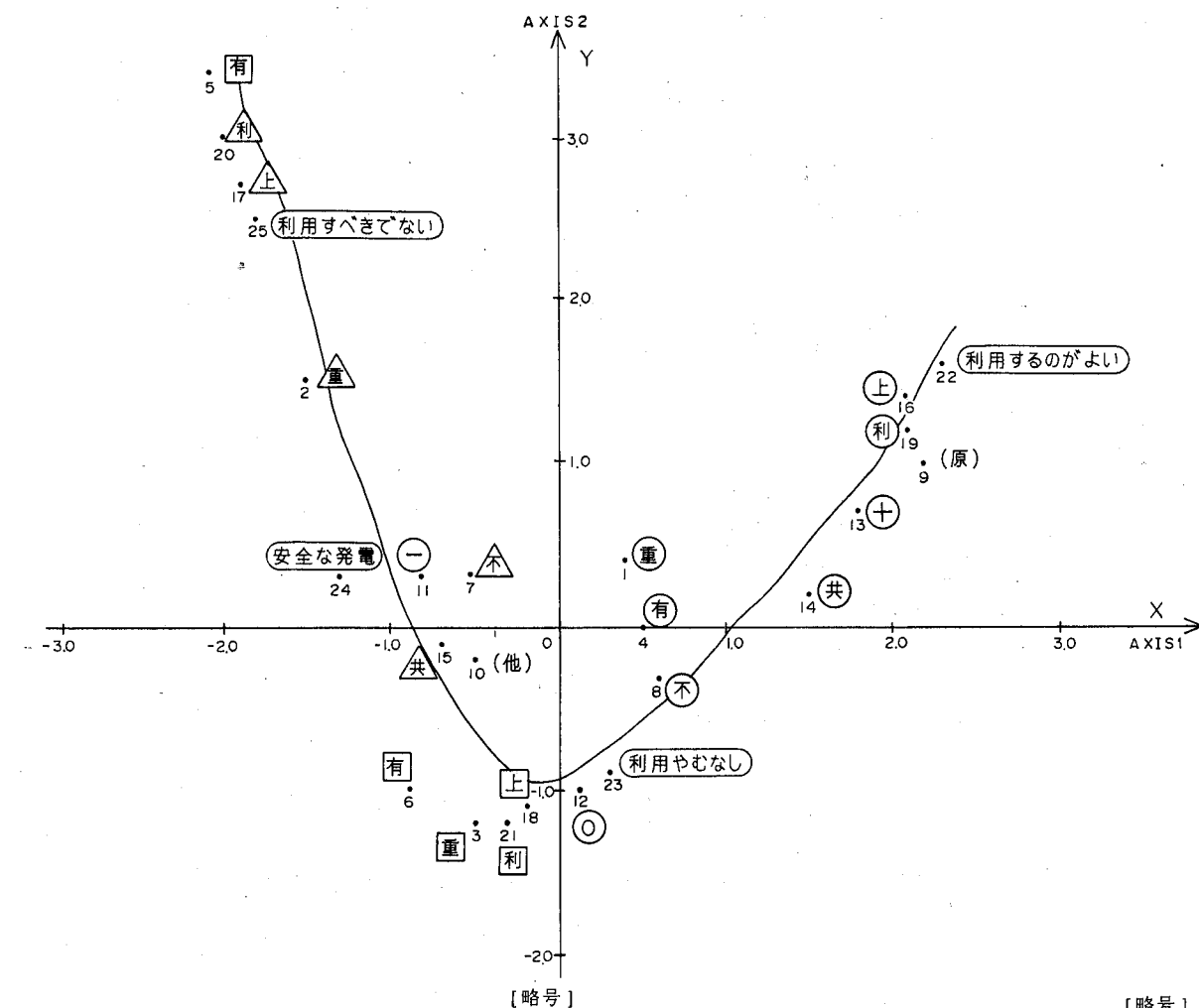
4.1.2 スケール化

以上の「質問・カテゴリー化されたもの」を用い数量化 III 類を用いて分析すると図 7 のような U 字型の形を得た。これは、とりあげた諸項目は結局のところ 1 次元スケールをしている、つまり、好意的-非好意的の 1 次元軸の上に位置付けられることを意味している。原子力発電は止むを得ないはその中間に位置付けられていることが図 7 からわかる。I 軸の右の方 (X 軸の+) は利用するがよい。I 軸の左の方 (X 軸の-) は利用すべきでないが来ている。他の項目は、常識的な意味を持って、この軸上に位置付けられていることがわかる。話が極めて簡単になった。

4.1.3 人の分類

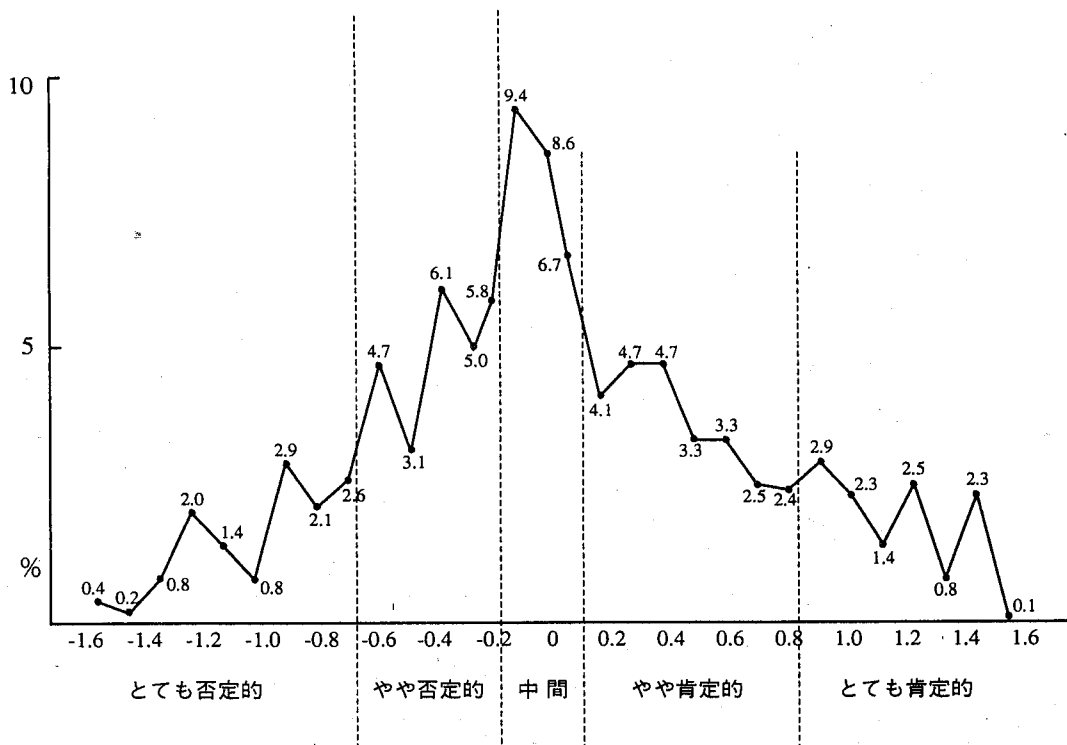
図 7 で 2 次元のグラフを描いたが、1 次元つまり I 軸 (X 軸) の値によって原子力発電に対する好意-非好意を示すことが出来ることが分かった。そこで各サンプルのスコアを、X 軸のスコアを用いて III 類の考えに従って計算し、その分布をとったところ図 8 のようになった。この分布をどう分割すべきかは分布の形による (質の差が予想されるところ、つまり分布の段落のあるところ) が、分布の形にそれがない場合はそれぞれの分割された内部での分散がなるべく小になるように分けるのが望ましい。⁽⁶⁾

この考え方によると、上記の分布は 5 分類が望ま



カテゴリー		【略号】		【略号】	
問21	1 ウ原子力発電		問37	6 話や記事に共感	
	1 非常に重要・重要	重		14 とても・すこし共感	共
	2 あまり重要でない・重要でない	重		15 あまり・まったく共感しない	共
	3 どちらとも・無回答	重			
問22	2 ウ原子力発電		問38	7 原子力発電を上手に利用	
	4 非常に有用・有用	有		16 できる	上
	5 あまり有用でない・有用でない	有		17 できない	上
	6 どちらとも・無回答	有		18 どちらとも・無回答	上
問23	3 (カ) 原子力発電事故		問39	8 原子力発電を今後も開発利用	
	7 非常に不安・かなり不安	不		19 利用すべき	利
	8 少しは不安・まったく不安	不		20 利用すべきでない	利
		不		21 どちらとも・無回答	利
問32	4 最も望ましい発電方法		問40	9 原子力発電の全体の考え	
	9 原子力発電	(原)		22 原子力発電を利用するのがよい	利用するのがよい
	10 それ以外	(他)		23 利用するのはやむをえない	利用やむなし
問35	5 アーイ反応個数			24 安全な発電に頼る方がよい	安全な発電
	11 - 1 1個から - 1 個	-		25 原子力発電は利用すべきでない	利用すべきでない
	12 0 個	0			
	13 1 個から 1 0 個	+			

図 7 原子力発電への態度 (I 軸, II 軸カテゴリースコア布置)



		原子力態度		1.451			
		MAX		-1.505			
		MIN					
		区分	N	%	下から累積	上から累積	
とても否定的	-1.6 < ≤	-1.6	0	0.0%	0.0%	100.0%	
		-1.5	5	0.4%	0.4%	100.0%	
		-1.4	2	0.2%	0.6%	99.6%	
		-1.3	9	0.8%	1.4%	99.4%	
		-1.2	23	2.0%	3.4%	98.6%	
		-1.1	16	1.4%	4.8%	96.6%	
		-1	9	0.8%	5.6%	95.2%	
		-0.9	33	2.9%	8.5%	94.4%	
		-0.8	24	2.1%	10.6%	91.5%	
やや否定的		-0.7	30	2.6%	13.3%	89.4%	
		-0.6	54	4.7%	18.0%	86.7%	
		-0.5	35	3.1%	21.1%	82.0%	
		-0.4	69	6.1%	27.2%	78.9%	
		-0.3	57	5.0%	32.2%	72.8%	
中間		-0.2	66	5.8%	38.0%	67.8%	
		-0.1	107	9.4%	47.4%	62.0%	
		0	98	8.6%	56.0%	52.6%	
やや肯定的		0.1	76	6.7%	62.7%	44.0%	
		0.2	47	4.1%	66.8%	37.3%	
		0.3	53	4.7%	71.4%	33.2%	
		0.4	53	4.7%	76.1%	28.6%	
		0.5	38	3.3%	79.4%	23.9%	
		0.6	38	3.3%	82.8%	20.6%	
		0.7	29	2.5%	85.3%	17.2%	
		0.8	27	2.4%	87.7%	14.7%	
とても肯定的		0.9	33	2.9%	90.6%	12.3%	
		1	26	2.3%	92.9%	9.4%	
		1.1	16	1.4%	94.3%	7.1%	
		1.2	29	2.5%	96.8%	5.7%	
		1.3	9	0.8%	97.6%	3.2%	
		1.4	26	2.3%	99.9%	2.4%	
-1.4 < ≤	1.5	1	0.1%	100.0%	0.1%		
		0					
		1138					

図 8 原子力態度 (I 軸サンプルスコア分布)

1	エネルギー、燃料、資源	7.1%
2	電気、電力、発電（所）	38.5
3	戦争、原爆、核兵器	28.6
4	事故、爆発	17.2
5	放射能、故障、環境汚染	18.3
6	危険、不安	5.7
7	その他	13.9

表 6 原子力イメージ

しくその分点は図 8 に示すとおりになる。こうして分点を用いてサンプルを分類すると次のような構成比率を得た。(表 5)

4.2 原子力イメージ (2)

自由回答を次のように大分類した。それぞれの比率は表 6 に示すとおりである。これは、このままの形で用いることにした。

4.3 原子力認識 (3)

以下の 6 項目について、回答カテゴリーをそのまま、あるいは若干のカテゴリーの統合 (□ でくくったところ)、除去を行って用いることにした。この場合の新しいカテゴリー記号は □ の左側に示す。以下の記述において同じ。

ア 最多発電方法認識

問 3 1 現在の日本の電力はどのような手段によるものが一番多いと思いますか。(お答は 1 つだけ)

1	1 火力発電	35.4
2	2 水力発電	23.7
3	3 原子力発電	33.1
4	4 太陽、風力、波力、地熱等の自然エネルギー発電	4.9
	5 その他 ()	0.2
	無回答	2.9

イ 原子力知識

問 3 3 あなたは、原子力発電の方法や長所・短所など、原子力発電について知っているほうだと思いますか、知らないほうだと思いますか。

ますか、知らないほうだと思いますか。

1	1 知っているほうだと思う	15.0
2	2 知らないほうだと思う	65.3
3	3 どちらともいえない	19.3
	無回答	0.4

ウ 原子力発電について知りたいこと

問 3 4 あなたは原子力発電についてどんなことをもっと知りたいと思いますか。知りたいことをつきの中からいくつでも選んでその番号に○をつけてください。

1	1 メカニズム・しくみ	30.3
2	2 必要性	28.9
3	3 経済性	14.8
4	4 安全性	74.1
5	5 過去の故障・事故についての情報	24.7
6	6 事故が発生した場合の防災体制	62.4
7	7 放射能の影響	60.3
8	8 使用済み燃料や廃棄物の処理・処分対策	57.3
9	9 原爆との違い	20.8
10	10 発電所所在地の地域振興	12.2
11	11 特に知りたいことはない	6.5

エ チェルノブイリ事故記憶

問 4 1 チェルノブイリ原子力発電所事故のことを覚えていますか。

1	1 よく覚えている	61.7
2	2 すこし覚えている	26.1
3	3 きいたことがあるような気がする	6.5
	4 覚えていない	5.3
	無回答	0.4

オ 事故原因

問 4 2 チェルノブイリ原子力発電所事故のような大きな事故の起きる主な原因はどこにあると思いますか。あなたが主な原因と思うものを次の中からいくつでも選んで、その番号に○をつけてください。

1 機器システムの故障	57.6
2 運転員のミス（人為的ミス）	40.5
3 管理体制の不備	70.7
4 運転マニュアル等の不備	25.5

カ 事故の影響

問 4 3 チェルノブイリ原子力発電所事故のような大きな事故の影響として、あなたが最も不安に思っていることを次の中から1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

1	1 発電所内や周辺の人々に死傷事故が起きること	7.3
2	2 発電所内や周辺の人々に安全基準を超える放射能被爆が起きる	12.3
3	3 放射能汚染は、周辺地域にとどまらず、世界の他の地域のまで及ぶこと	34.4
4	4 放射能汚染の影響は私達だけにとどまらず子や孫の代にまで及ぶこと	43.8
	無回答	1.5

4.4 エネルギー問題（4）

下記の2項目について、アについては回答結果をもとに3カテゴリーとし、イについては回答カテゴリーをそのまま用いることにした。

ア 重要性

問 2 8 最近ではまたエネルギーの問題が話題になることがしばしばあります。

あなたご自身は、このことは重要な問題だと思いますか。

1	1 非常に重要である	43.5
2	2 重要である	49.6
	3 あまり重要ではない	6.1
3	4 重要ではない	0.1
	5 その他（ ）	0.3
	無回答	0.4

イ 発電能力

問 2 9 現在の日本の発電能力は十分だと思いますか、それとも不足していると思いますか。

1	1 十分	13.2
2	2 やや十分	14.3
3	3 ちょうどよいくらい	32.1
4	4 やや不足	31.0
5	5 不足	8.3
	無回答	1.1

4.5 環境関心（4）

4.5.1 用いた質問

下記の質問（アイテム）とカテゴリーを用い、数量化III類を行った。

アイテム	カテゴリー
問 9 環境問題関心	1 関心あり [1] * 2 関心なし [2~4, NA]
問 1 1 環境問題を考えていることの 個数	1 0~2個 2 3~5個 3 6個以上
問 1 2 エ 一番危険な こと（自由回答）	1 環境汚染、破壊を あげたもの 2 あげなかったもの
問 2 1 オ 身近な環境 保護重要度	1 重要 [1, 2] 2 重要でない [3~5, NA]
問 2 2 オ 身近な環境 保護有用度	1 有用 [1, 2] 2 有用でない [3~5, NA]
問 2 3 キ 身近な環境	1 不安感じる [1, 2] 2 感じない [3~5, NA]
問 2 3 ク 地球規模の環 境破壊不安度	1 不安感じる 2 感じない [3~5, NA]
問 3 0 B 生活不便を我 慢しても電力 供給をふやさ ないの個数	1 0~1個 2 2~3個 3 4~5個

	構成比	I 軸のサンプルスコア
1 関心大	21.4%	≤ -0.4
2 やや大	33.8	$-0.4 < \leq -0.1$
3 やや小	34.0	$-0.1 < \leq 0.7$
4 関心小	10.8	> 0.7

表 7 環境関心

* [] 内数字は調査票の回答のくり直しをした場合のものと回答カテゴリー No.

4.5.2 分析と人の分類

環境問題関心については、I 軸 (X 軸) に環境問題に対する関心の大小の分かれ (+ 方向が関心小, 一方向が関心大), II 軸には中間の態度とその他の分かれがみられ, 1 次元構造としてとらえられることが分かった。そこで, X 軸のサンプルスコアの分布の特色により, 4. 1. 3 の考え方で表 7 のカテゴリー (関心大, やや大, やや小, 関心小) に分けることにした。

4.6 不安感 (4)

問 1 3 について数量化 III 類を行うと綺麗な 1 次元スケールをすることがすでに分かっている⁽³⁾ので問 1 3 ア～オの 5 つの項目「重い病気」、「交通事故」、「失業」、「戦争」、「原子力施設の事故」に対して「非常に不安を感じる」といくつ答えたかの回答数をとって, 不安 (「心配性」) スケールとした。

この回答により表 8 の 3 カテゴリーに分けた。

	構成比
【スケール】	
1 0 個	43.9%
2 1～2 個	39.5
3 3 個以上	16.6

表 8 不安スケールによる人の分類

4.7 リスク感覚 (4)

4.7.1 事故関心スケール

問 2 3 ア～ク「道路交通事故」、「列車・電車事故」、「新幹線事故」、「大型航空機事故」、「エイズ」、「原子力発電事故」、「身近な環境破壊」、「地球規模の環境破壊」に対して、「1 非常に不安」、「2 かなり不安」と回答した個数により表 9 の 3 グループに分けた。

4.7.2 一番危険を感じる事

問 1 2 私達が社会生活を送っていくうえで, いろいろ「危険なこと」が考えられます。次のような危険といったら何を思い浮かべますか (ア) (イ) (ウ) (エ) のそれぞれについて具体的にお答えください。
(ア) 自然災害
(イ) 自分ではどうすることもできなくて, 思いがけなくまき込まれる人為的災害
(ウ) 自分がしたいことをしたり, しなければならぬことをする時に起きるかもしれない人為的危険
(エ) いまお答えいただいたものの中で, あなたが一番危険だと感じているものを一つだけお知らせください。

1	交通事故	42.3%
2	自然災害	17.8
3	環境汚染、環境破壊	5.3
4	火事	5.2
5	人間関係トラブル	1.0
6	戦争	1.6
7	原子力、原発、放射能	1.2
8	その他	2.2

表 10 一番危険を感じていること

(エ) における回答結果により表 10 のようにカテゴリー化した。

カテゴリー	1			2			3		
	0個	1個	2個	3個	4個	5個	6個	7個	8個
スケール									
比 率	4.9	7.0	10.0	13.5	15.1	17.9	11.4	7.3	12.8
構成比	22.0%			46.5%			31.5%		

表 9 事故関心の程度による人の分類

4.8 科学文明観 (5)

4.8.1 質問文

下記の質問（アイテム）とカテゴリーを用い、数量化 III 類を行った。

アイテム	カテゴリー
(S) 科学文明観*	1 0個 2 1個 3 2個 4 3個 5 4-8個
問10 科学の発展と人間らしさ	1 へる 2 いちがいにいえない 3 不変・ふえる
問14 機械化と人間らしさ	1 へる 2 いちがいにいえない 3 へらない
問15 自然と人間	1 自然に従う 2 自然を利用 3 自然を征服
問16 (3) 科学技術プラスの個数	1 0-1個 2 2個 3 3個 4 4個 5 5個

* この分類は下記のうち○のついた個数による。
問17 「コンピュータがいろいろなところに使われるようになり、情報化社会などということが言われています。このような傾向が進むこと」に「望ましい」。

問19 ア。「病気の中には近代医学とは別の方法で治療したほうが良いものがある」に「そうは思わな

い」あるいは「決してそうは思わない」。

イ。「科学技術が発展すればいつかは人間の心の中までも解明できる」に「まったくそのとおりだと思う」あるいは「そう思う」。

ウ。「今日我々が直面している経済的、社会的問題のほとんどは科学技術の進歩により解決される」に「まったくそのとおりだと思う」あるいは「そう思う」。

問20 ア～エ 「原子力廃棄物の安全な処理方法」「ガンの治療方法の解明」「老人性痴呆症の治療方法の解明」「宇宙ステーションでの生活」の各々について「今後25年の間にたぶん実現する」。

4.8.2 分析と人の分類

科学文明観についても、I 軸には科学文明肯定～否定（＋方向が否定、－方向が肯定）の分かれが、II 軸に中間的態度とそれ以外の分かれが見られ、1次元スケールで捉えられることが明らかになった。そこでI軸のサンプルスコアの分布の特色に基づき、表11の6カテゴリーに分けることにした。

	構成比	I 軸のサンプルスコア
1 とても ネガティブ	12.0%	>0.8
2 やや ネガティブ	18.4	0.8≥ > 0.2
3 やややネガティブ	27.5	0.2≥ >-0.3
4 中 間	15.8	-0.3≥ >-0.4
5 やや ポジティブ	20.5	-0.4≥ >-0.7
6 とても ポジティブ	5.7	≤-0.7

表 11 科学文明観

4.9 社会意識 (6)

4.9.1 航空機等の重要性

問21のア「航空機」、イ「エイズ」、エ「臓器移植」の重要性に、「1 非常に重要」または「2 重要」と回答した個数により表12の4つに分類した。

カテゴリー	1	2	3	4
スケール	0個	1個	2個	3個
比率	12.9	23.9	36.4	26.8

表12 重要性個数による分類

4.9.2 航空機等の有用性

問22のア「航空機」、イ「エイズ」、エ「臓器移植」の有用性に、「1 非常に有用」または「2 有用」と回答した個数により表13の3つに分類した。

カテゴリー	1		2	3
スケール	0個	1個	2個	3個
比率	4.7	8.6	30.3	56.4

13.3

表13 有用性個数による分類

4.10 政治的態度 (6)

4.10.1 政治関心

政治関心については、問44の回答結果を基に下記の3カテゴリーに結合した。

問44 あなたは最近の政治に関心がありますか。

1	1 非常に関心がある	18.8
2	2 まあ関心がある	43.0
3	3 あまり関心がない	31.2
	4 まったく関心がない	6.2
	5 その他 ()	0.2
	無回答	0.7

4.10.2 主義評価・支持政党

下記の質問(アイテム)とカテゴリーを用い、数量化III類を行った。

アイテム	カテゴリー
問45(1) 民主主義評価	1 よい 2 時と場合による 3 よくない
問45(2) 資本主義評価	2 よい 2 時と場合による 3 よくない
問45(3) 社会主義評価	1 よい [3] * 2 時と場合による [2] 3 よくない [1]
問46 支持政党	1 自民 [1] 2 革新 [2, 5, 6] 3 中道 [3, 4, 7, 8] 4 支持なし [9, NA]

* [] 内数字は調査票の回答のくくり直しをした場合のものの回答カテゴリーNo.

その結果、主義評価・支持政党については、II軸に「社会主義よい・革新支持」(+方向)とそれ以外の分かれ、I軸に「民主主義・資本主義よい・自民党・中道政党支持」(+方向)と「時と場合による・支持政党なし」(-方向)の分かれがみられた

ので、両軸のサンプルスコアの正負により表 14 の 3 カテゴリーに分けることにした。

	構成比	I II 軸のサンプルスコア
1 民主主義・自由主義よい 自民・中道支持	40.3%	I 軸 > 0, II 軸 ≤ 0
2 時と場合による 支持政党なし	39.4	I 軸 < 0, II 軸 ≤ 0
3 社会主義よい、革新支持	20.3	II 軸 > 0

表 14 政治意識による分類

4.11 国民性 (7)

4.11.1 中間的回答の好み

日本人は事の黒白をはっきりせず、中間的な態度を表現することが多い⁽³⁾⁽⁵⁾。そのスケールとしてある質問に対して「どちらともいえない」「いちがいにはいえない」「時と場合による」と中間的回答をした個数をとりあげる。対象とした質問は注記の 34 問である。

注 問 10, 問 14, 問 21 ア～オ,
問 22 ア～オ, 問 25 ア～ケ, 問 33,
問 36 ア～カ, 問 38, 問 39,
問 45 (1)～(3), 問 51

この回答結果により表 15 の 3 グループに分けた。

	構成比
【中間回答スケール】	
1 0～4 個	9.9%
2 5～12 個	59.7
3 13 個以上	30.4

表 15 中間回答による分類

4.11.2 信頼感

問 47, 48, 49 がスケールをすることがすでに分かっているので⁽³⁾それに従った。

信頼感スケールは、問 47 「たいていの人他人の役にたとうとしていると思うか」に「イエス」、問 48 「他人は機会があればあなたを利用しようとしていると思うか」に「ノー」、問 49 「たいていの人他人は信頼できると思いますか」に「イエス」と回答した個数がスケールとなるのでそれを用いた。

この回答結果により表 16 の 3 グループに分けた。

	構成比
【信頼性スケール】	
1 0 個	28.1%
2 1 個	33.0
3 2～3 個	38.8

表 16 信頼感スケールによる分類

4.11.3 日本のリーダー

ここに用いた問 25, 50, 51, 52 は日中の比較調査に用いたものである。その結果、日本の特色となっていたものは次に示すものであり、これがスケールを作っていることが分かっているので⁽⁵⁾、それを用いた。

問 25 で「中庸」、「寛容」、「礼儀を重んじる」、「子孫繁栄」、「和」、「分別」について「誇りに感じる」問 50 で「公の問題は影響力も経験もある人に任せるべきだ」問 51 で「リーダーとしていいのは年輩

	構成比
【日本のリーダー観】	
1 0～2 個 非日本的	8.8%
2 3～6 個 ↑	53.0
3 7 個以上 日本的	38.2

表 17 日本のリーダーシップの好みによる分類

	構 成 比
1 0～3個	13.4%
2 4～9個	49.2
3 10個以上	37.4

表 18 超自然お化け関心による分類

で尊敬される人」問52で「リーダーの素質として最も重要なもの」として、「部下を公平に扱うこと」、「部下に尊敬され、好かれていること」、「人間関係がよい、顔が広いこと」、「仕事仲間に誠心誠意接すること」、「判断力がすぐれていること」、「年功を積んでいること」

日本的リーダー観スケールは、上記のうちいくつに○がついたかその個数によった。

この結果により表 17の3グループに分けた。

4.11.4 超自然・お化けに対する関心

スケールは問26の「雪男」、「ネッシー」、「空飛ぶ円盤・宇宙人」、「幽霊・亡霊」、「カッパ」、「妖怪」、「超能力・念力」、「人のたたり」、「人をのろい殺すなどの怨霊」、「過去や未来へ行けるタイムマシン」、「龍」、「鬼」の12の事柄に対して「いてほしい・あってほしい」、「いる・ある」、「こわい・おそろしい」、「いてほしくない・あってほしくない」、「たのしい・おもしろい」のいずれかに○をすることは、こうしたものに対する「心の係わり合い」をあらわすものとして、関心度はそれぞれに回答した個数によった。

この結果に基づき表 18の3グループに分けた。

4.11.5 迷信に関する分類

問27の8項目「仏滅の日に結婚式をあげる」、「友引の日に葬式をする」、「悪い方角に移転する」、「命名するときの字画の数」、「三隣亡の日に家を建てる」、「いやな夢を見る」、「北に頭をむけて寝る」、「葬式から帰った後に塩をまくことを忘れた」に「たいへん気になる」、「少し気になる」にいくつ回答し

	構 成 比
【迷 信】	
1 0～2個	14.0%
2 3～6個	38.4
3 7～8個	47.6

表 19 迷信が気になる程度による分類

[性別(F1)] (構成比)

1 男性	47.3%
2 女性	52.7

[年齢(F2)]

1 18～29才 [1-3]	24.0
2 30～39才 [4-5]	20.7
3 40～59才 [6-9]	41.4
4 60才以上 [10-12]	13.9

[学歴(F3)]

1 小・中学校卒 [1-2]	14.2
2 高校卒 [3]	52.8
3 大学卒 [4]	32.2

[居住地域]

1 市部	85.5
2 郡部	14.5

表 20 属性による分類

たかにより分類した。

この結果により表 19の3グループに分けた。

4.12 属性 (8)

属性については、それぞれ表 20のカテゴリーを用いることにした。

表中の [] 内数字は、調査票の回答のくくり直

しをしたばあいのもとの回答カテゴリー NO.

4.13 マスコミ接触とマスコミ信頼度

4.13.1 マスコミ接触

マスコミ接触については、下記の質問（アイテム）、カテゴリーを用い、数量化 III 類を行った。

アイテム	カテゴリー
問1 ニュース 接触度	1 ニュース よくみる [1] * 2 それ以外 [2-5, NA]
問2 購読新聞数	1 0紙 2 1 7 6
問3 よく読む 新聞記事数	1 0個 2 1 24 23
問4 よくみる テレビ局数	1 0局 2 1 10 9
問5 よくみるテレビ 番組数	1 0個 2 1 20 19
問6 よく読む週刊誌数	1 0誌 2 1 13 12
問7 購読月刊誌有無	1 あり 2 なし (NAを含む)

* [] 内数字は調査票の回答のくり直しをした場合のもとの回答カテゴリー NO.

マスコミ接触については、I 軸（X 軸）に接触度大～小の分かれ（+方向が接触度小），II 軸に中間層とそれ以外の分かれがみられ、接触度については、

	構成比	I 軸のサンプルスコア
1 H	11.9%	≤ -0.6
2 M	68.0	$-0.6 < \leq 0.4$
3 L	20.1	> 0.4

表 21 マスコミ接触による分類

接触×信頼	a マスコミ接触	b 信頼	構成比
1	H	H	3.5%
2	H	M	4.9
3	H	L	4.0
4	M	H	16.5
5	M	M	28.2
6	M	L	22.8
7	L	H	4.2
8	L	M	3.0
9	L	L	9.8

表 23 マスコミ接触×信頼度による分類

1 次元構造であることが分かる。

そこで X 軸のサンプルスコアの分布の特色に基づき、接触度については接触度大 H、接触度中 M、接触度小 L、の 3 グループに分けた。（表 21）

4.13.2 マスコミ信頼

マスコミ信頼については、問 8 のア～カ「新聞全国紙」、「新聞地方紙」、「NHK」、「民放テレビ・ラジオ」、「衛星放送」、「週刊誌・月刊誌」に対して、「1 とても信頼できる」あるいは「2 すこし信頼できる」と回答した数で表 22 の 3 グループに分けた。

4.13.3 マスコミ接触×信頼

マスコミ接触×信頼については、4. 13. 1, 4. 13. 2 の結果を組み合わせる表 23 の 9 カテゴリーとした。

以上によって、原子力発電に対する態度とこれと関連する諸事項の集約を作ることが出来た。一応これ

スケール	L			M		H	
カテゴリー	0 個	1 個	2 個	3 個	4 個	5 個	6 個
比 率	14.5	7.8	14.4	20.1	19.1	17.5	6.8

表 22 マスコミ信頼度による分類

が一般の人々の態度構造の要素となるわけである。

次にこれと関連づけられるべき発電側の対応に関連するものを集約しておこう。

5. 発電側の対応のカテゴリー化 (10)

5.1 航空機会社の姿勢

A社、B社に対する得点配分をまとめて、次のような分類を作った。A社、B社それぞれの得点別クロス集計を行い、表 24のように7カテゴリーに分け、以下の解析に用いることとした。

これを解り易く記述してみると次のようになる。

1. $A=B \leq 5$ という共に評価の低い
グループ 17%
2. $A=B \geq 6$ という共に評価の高い
グループ 12%
3. $A(0 \sim 2) \cdot B(3 \sim 5)$ という共に評価は低いがBにやや評価が高いグループ 7%
4. $A(0 \sim 2) \cdot B(6 \sim 8)$ というAの評価低いがBに対する評価かなり高いグループ 15%
5. $A(0 \sim 2) \cdot B(9 \sim 10)$ というAの評価は低いがBに対する評価が高いグループ 15%
6. $3 \leq A < B$ というAの評価はややあるがBに対する評価がより高いグループ 29%
7. $A > B$ というAの評価がBより高いグループ 3%

5.2 安全性の説明に関する納得の程度

質問は問36で次のようなものである。

問36 原子力発電の安全確保に関するつぎのような説明を聞いたとき、あなたはどの程度納得できますか。納得できませんか。

ア 発電所周辺の人が、年間に受ける放射線量は、0.001ミリシーベルト以下です。これはX線検診1回で受ける放射線量の300分の1以下のレベルで安心です。

- 1 たいへん納得できる
- 2 少し納得できる
- 3 あまり納得できない
- 4 まったく納得できない
- 5 どちらともいえない

イ 事故の早期発見、事故未然防止のための種々の方策が採られている。(定期検査、インターロック、フェールセーフシステム等々)

- 1 たいへん納得できる
- 2 少し納得できる
- 3 あまり納得できない
- 4 まったく納得できない
- 5 どちらともいえない

ウ 故障が発生しても、放射能漏れが起きないように多重防護施設など万全の方策がとられている。

- 1 たいへん納得できる
- 2 少し納得できる
- 3 あまり納得できない
- 4 まったく納得できない
- 5 どちらともいえない

		A 社				
		0～2点	3～5	6～8	9～10	NA
B 社	0～2点	1 4.7	0.2	7 0.3	0.1	0.1
	3～5	3 7.4	11.9	1.9	0.1	—
	6～8	4 15.1	6 18.2	2 9.6	0.5	—
	9～10	5 15.2	7.1	3.9	2.2	—
	NA	0.1	—	—	—	1.2

表 24 会社の姿勢評価による分類

エ 事故につながるような恐れが少しでもあるときは、ただちに運転を停止しているから安全性は十分保たれている。

- 1 たいへん納得できる
- 2 少し納得できる
- 3 あまり納得できない
- 4 まったく納得できない
- 5 どちらともいえない

オ 発電設備は自然災害や戦争、犯罪などによる破壊から守られるよう堅固に作られ、また管理されている。

- 1 たいへん納得できる
- 2 少し納得できる
- 3 あまり納得できない
- 4 まったく納得できない
- 5 どちらともいえない

カ 事故がひとたび起きれば大変なことは重々承知している。事故が絶対起きないよう万全の努力をしている。

- 1 たいへん納得できる
- 2 少し納得できる
- 3 あまり納得できない

	構成比	分類基準
1. どの説明にも納得	33.3%	I軸 ≤ 0 II軸 ≥ 0
2. どちらともいえない	26.6	I軸 > 0
3. 納得しない	40.1	I軸 ≤ 0 II軸 < 0

表 25 納得スケールによる分類

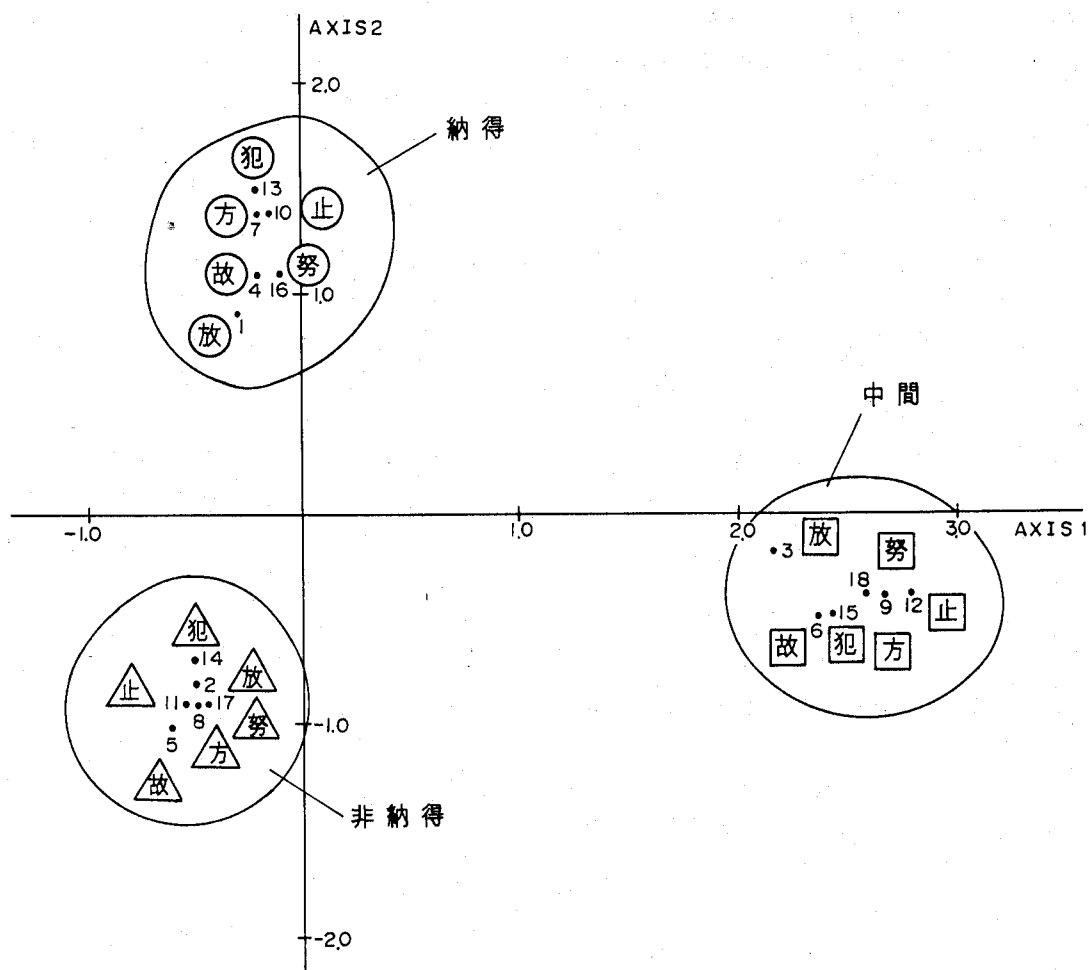
- 4 まったく納得できない
- 5 どちらともいえない

ここで数量化 III 類によりパタン分析を行った。

I, II 軸によって、どの説明にも「納得するもの」、「納得しないもの」、「どちらともいえない」の中間層にきれいに 3 分類される。(図 9)

この結果により、人々を表 25 のようにカテゴリー化すると次のような分布を得てこのような説明では納得しないものが、かなりあることが分かる。

さらに、III 軸まで計算し II 軸 × III 軸の分析をみると、納得の内容が分離されてくることが分かった。(図 10)



略号 放 ア 年間の放射線量 1 納得できる 2 納得できない 3 どちらともいえない イ 故障の早期発見 4 納得できる 5 納得できない 6 どちらともいえない ウ 万全な方策 7 納得できる 8 納得できない 9 どちらともいえない エ 運転を停止する 10 納得できる 11 納得できない 12 どちらともいえない 故 方 止	オ 自然災害・犯罪等でも安全 13 納得できる 14 納得できない 15 どちらともいえない カ 事故防止の万全な努力 16 納得できる 17 納得できない 18 どちらともいえない 犯 努 ○ できる △ できない □ どちらともいえない
--	---

図 9 納得パターン分析

納得の内容は年間放射線量で事実 (fact) に関するもので F という記号を用いる。故障の早期発見・運転停止・万全な方策で技術 (technical) に関するもので T という記号を用いる。自然災害でも犯罪でも安全、事故防止の万全な努力は情緒的 (emotional) 安全の説得ともいふべきもので E という記号を用いる。この結果をふまえて、安全性説明納得パターンについて下記のカテゴリー化を行ったところ、納得パターンによる分類比率の多いところをみると表 26 の型 1, 2, 3, 4, であり、総計 77% ある。これはガットマンスケールの形である。つまり納得パタンの順序がついていることである。

F T E

× T E

× × E

× × × (×印は該当しないことを示す。)

という形である。emotional E が根強いことを示している。このほか比率の多いものに、7 型、F × × という事実志向のもの、5 型という F × E という事実と情緒のあわさったものがある。E のあるもの 51%, F のあるもの 40%, T のあるもの 39% で、E の比率が多いのは注目してよい。

以上によって発電側の対応を大局的に表現することができた。こうして原子力発電をめぐる諸態度、関連する諸態度と共にすべての調査事項を表 4 の枠組みにまとめあげることができた。これは、表 27 に示される。

6. 原子力発電に対する態度構造の分析

6.1 調査項目の示す構造

ここでは表 4, 27 の 1 ~ 8 (マスコミは別に取扱う) に分類されたものを用い数量化 III 類を用いて何が析出されてくるかを見た。まず、I 軸・II 軸を目盛ってみると図 11 のようになる。表中の略号や数字は表 28 にあげておいた。原子力に対する態度は点線の四角で示され、好意的 P, 中間 , 非好意的 N, によって表現されている。ここでは I 軸の右方に無関心層の特色を示すと言える項目がなっている。

つまり原子力発電について知りたいこと特になし、環境関心小、エネルギー問題重要でない、航空機等の重要性を認めない、チェルノブイリ事故覚えていない、航空機等の有用性認めないといったものがない。I 軸はこの層の分離ということになるので、II 軸, III 軸を目盛ってみると図 12 を得る。これによって原子力発電に対する好意的—中間—非好意的の位置付けが明瞭に現れている。好意—非好意的の 1 次元的のものも、他の質問項目とあわせるとき 1 次元的構造ではなく内容的に 2 次元的な性格を持てることがわかる。つまり、好意—中間—非好意はそれ自身 1 次元的でもその内容・性格にまで分け入るとき 2 次元的性格を示すことが分かった。しかし、2 次元的構造においても原子力発電に対する態度の差異が明瞭に浮かび上がってきたことは注目すべきことであった。

このグラフを克明によむと表 29 のようになり面白い特色が浮き彫りにされてくる。

強いポジティブ (好意的), 強いネガティブ (非好意的) の意見に共通する性格の意見は、原子力発電の長所・短所を知っている方、お化けへの関心が少ない・迷信気にならないと言った合理的傾向の思考、一番危険を感じていることは犯罪、いじめ、人間関係と言ったものである。ここは共通であるが、強いポジティブの意見には、科学文明観ポジティブ中間回答少ない (はっきりものを言う)、事故関心は少ない、強いネガティブの意見では、航空機等の有用性少ない、日本的リーダーシップ好まない、科学文明観否定的、日本の発電力十分、環境関心大、一番危険を感じていること、病気、薬害、医療ミス等、原子力、原発、放射能汚染、戦争、環境汚染、自然破壊という意見が近いのである。

ややポジティブ、ややネガティブの特色は表 29 の中の下線を付したところで、無印は正に中間的ということになる。無印には平凡なものが来ているが、日本的リーダーシップ好むか中間、迷信気にかかることが大、お化け関心大、政治主義では時と場合による、人間の信頼感大、中間的回答大と言う日本人らしいものがここにあがり、さらに、表 28 のうち表 29 にあがっていないもの (特に目立ったものはない) は中間的意見の特色となっている。

つぎに、III 軸, IV 軸の関係を目盛ってみると、

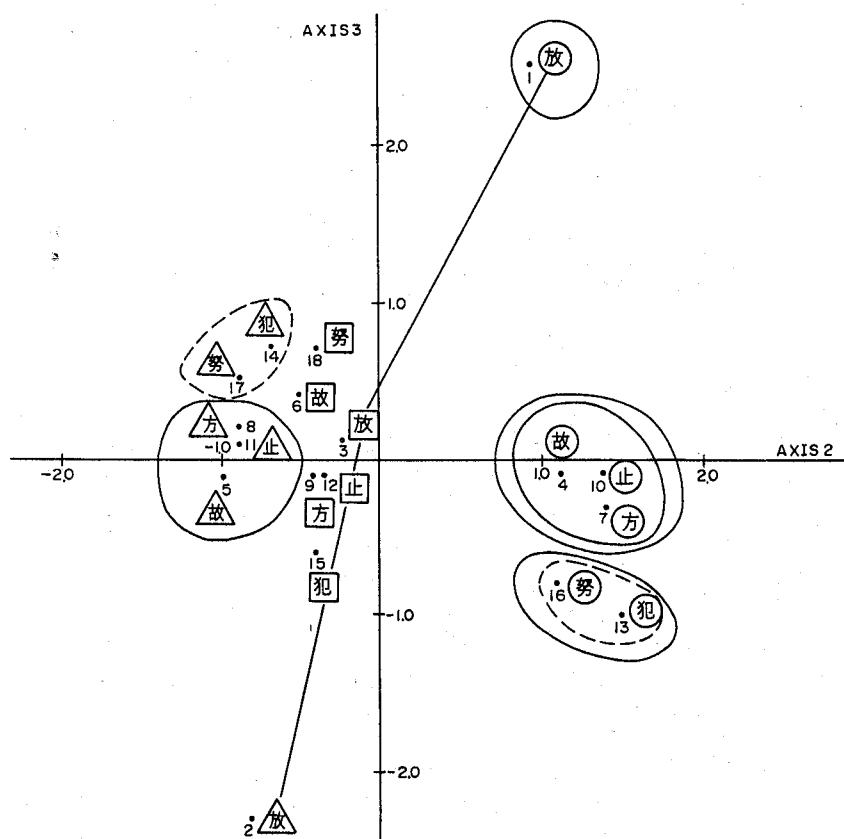


図 10 安全性説明納得パターン（II 軸，III 軸カテゴリースコア布置）

型		1	2	3	4	5	6	7	8
反応パターン	・年間の放射線量 F (○は納得)	○	×	×	×	○	○	○	×
	・故障の早期発見 ・万全な方策 T ・運転停止 に (○は2コ以上納得)	○	○	×	×	×	○	×	○
	・自然災害・犯罪など からも安全 E ・万全の努力 に (○は1コ以上納得)	○	○	○	×	○	×	×	×
構成比 (%)		21.0	10.5	12.6	33.3	6.4	3.5	8.8	3.8

77%

23%

表 26 納得パターンによる分類

表 27 能力度構造分析のための領域別要因アイテム・カテゴリー一覧

[略号]

- 原子力態度
 ① 1 とても否定的
 ② 2 やや否定的
 ③ 3 中間
 ④ 4 やや肯定的
 ⑤ 5 とても肯定的
 原子力から連想
 [燃] 76 エネルギー・燃料・資源
 [電] 77 電気・電力・発電 (所)
 [戦] 8 戦争・原爆・核兵器
 [事] 9 事故・爆発
 [放] 10 放射能・故障・環境汚染
 [危] 11 危険・不安
 [他] 12 その他
 日本の電力手段
 (火) 13 火力発電
 (水) 14 水力発電
 (原) 15 原子力発電
 (他) 16 その他
 原子力発電の長所・短所
 ① 17 知っているほうだと思う
 ② 18 知らないほうだと思う
 ③ 19 どちらともいえない
 原子力発電で知りたいこと
 <技> 20 メカニズム・しくみ
 <必要> 21 必要性
 <経> 22 経済性
 <安> 23 安全性
 <故> 24 過去の故障・事故の情報
 <防> 25 事故が発生した場合の防災体制
 <放> 26 放射能の影響
 <廃> 27 廃棄物の処理・処分対策
 <爆> 28 原爆との違い
 <地> 29 発電所所在地の地域振興
 <知> 30 特になし
 チェルノブイリ発電所事故
 ④ 31 よく覚えている
 ③ 32 すこし覚えている
 ② 33 覚えていない
 原発事故の主な原因
 ④ 34 機器システムの故障
 ③ 35 運転員のミス (人為的ミス)
 ② 36 管理体制の不備
 ① 37 運転マニュアル等の不備
 原発事故の影響での不安
 ④ 38 周辺の人々に死傷事故が起こる
 ③ 39 安全基準値を超える放射能被曝
 ② 40 放射能汚染は世界の他の地域へ
 ① 41 放射能汚染は子や孫まで及ぶ
 エネルギーの問題
 ④ 42 非常に重要である
 ③ 43 重要である
 ② 44 重要ではない
 日本の発電能力
 ④ 45 十分
 ③ 46 やや十分
 ② 47 ちょうどよいくらい
 ① 48 やや不足
 ④ 49 不足
 環境関心
 ④ 50 関心大
 ③ 51 やや大
 ② 52 やや小
 ① 53 小
 心配性
 ④ 54 小
 ③ 55 中
 ② 56 大
 事故関心
 ④ 57 小
 ③ 58 中
 ② 59 大

[略号]

- 一番危険と感じていること
 交 60 交通事故
 自 61 地震・台風等の自然災害
 環 62 環境汚染・自然破壊・異常気象
 火 63 火事
 犯 64 犯罪被害・いじめ・人間関係
 戦 65 戦争
 原 66 原子力・原発・放射能汚染
 他 67 病気・薬害・医療ミス・その他
 科学文明観
 ④ 68 とても否定的
 ③ 69 やや否定的
 ② 70 ややや否定的
 ① 71 中間
 ④ 72 やや肯定的
 ③ 73 とても肯定的
 問 2 1 反応個数 (航空機等重要性)
 ④ 74 0 個
 ③ 75 1 個
 ② 76 2 個
 ① 77 3 個
 問 2 2 反応個数 (航空機等有用性)
 ④ 78 0 個～1 個
 ③ 79 2 個
 ② 80 3 個
 政治への関心度
 ④ 81 非常に関心がある
 ③ 82 まあ関心がある
 ② 83 関心なし
 ○○主義+支持政党
 ④ 84 民主・資本主義よい
 ③ 85 時と場合による
 ② 86 社会主義よい
 【中間回答尺度】
 ④ 87 0～4 個
 ③ 88 5～12 個
 ② 89 13 個以上
 【信頼感スケール】
 ④ 90 0 個
 ③ 91 1 個
 ② 92 2～3 個
 【日本的リーダー観】
 ④ 93 0～2 個
 ③ 94 3～6 個
 ② 95 7 個以上
 【お化け関心スケール】
 ④ 96 0～3 個
 ③ 97 4～9 個
 ② 98 10 個以上
 【迷信】
 ④ 99 0～2 個
 ③ 100 3～6 個
 ② 101 7～8 個
 性別
 男 102 男性
 女 103 女性
 年齢
 若 104 18～29 歳
 中 105 30～39 歳
 高 106 40～59 歳
 老 107 60 歳以上
 学歴
 中卒 108 小・中卒
 高卒 109 高校卒・旧中卒
 大卒 110 大学卒・旧高専・旧大卒
 市都 111 市都
 郡部 112 郡部

表 28 略号一覧

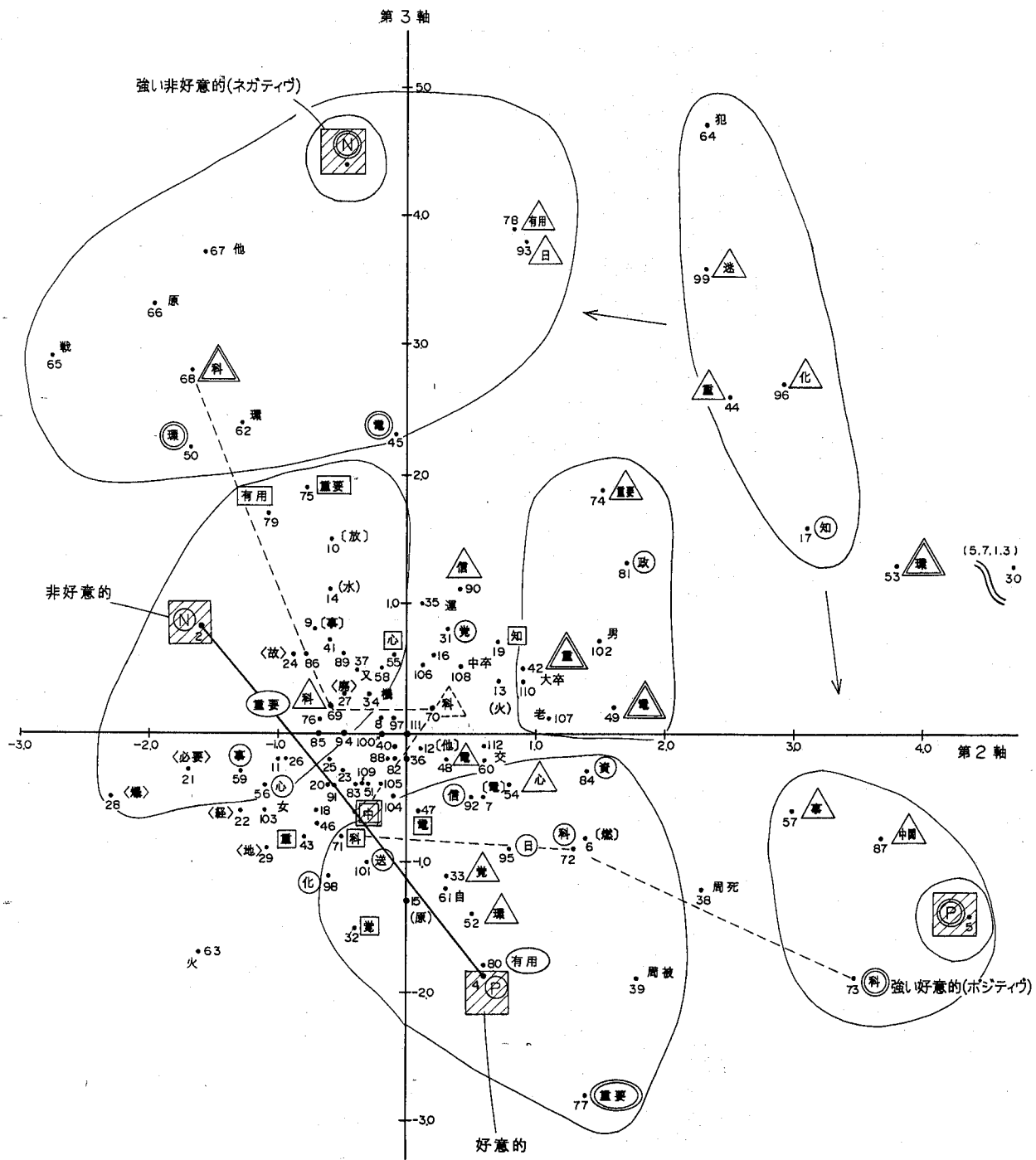


図 12 原子力発電に対する態度構造 (II 軸, III 軸のカテゴリースコア布置)

	特 色	共 通 特 色
強い好意的 (ポジティブ)	- 科学文明観 ポジティブ - 中間回答少ない (はっきりものをいう) - 事故関心は少ない	- 原子力発電の長所・短所 知っているほう - お化け関心 少ない - 迷信気にならない - 一番危険を感じていることは犯罪、 いじめ、人間関係
強い非好意的 (ネガティブ)	- 航空機等の有用性少ない - 日本的リーダーシップ 好まない - 一番危険を感じていること 病気、薬害、医療ミス等 原子力、原発、放射能汚染 戦争、環境汚染、自然破壊 - 科学文明観否定的 - 日本の発電能力十分 - 環境関心大	- 人間不信感 強い - 原発の事故 運転ミス - チェルノブイリ事故 よく覚えている - 原子力発電の長所・短所の知識 どちらとも言えぬ
非好意的 (ネガティブ)	- 航空機等の有用性 中間 - 航空機等の重要性 中間 - 原子力からの連想 放射能・故障・環境汚染、 事故・爆発 - 日本の発電 水力 - 原子力発電で知りたいこと 過去の故障等、廃棄物の処理、 地域振興、放射能の影響、 原発の必要性、原爆との違い - 社会主義よい - 原子力事故の影響 子孫に及ぶ - 中間的回答多い - 原発事故の主な原因 マニュアル等 の不備、機器システムの故障 - 不安感 中間および大 - 事故関心 中位と大 - 科学文明観やや否定的 - 日本的リーダーシップ観 中間 - 主義 時と場合による - 原子力からの連想 危険	- 政治関心 大 - 男 - 日本の電力不足 - エネルギー問題重要 - 大卒 60歳以上
好意的 (ポジティブ)	- 民主・資本主義よい - 不安なし - 人間の信頼感大 - 日本の電力 ちょうどよい - 科学文明観 やや肯定的、中間 - 迷信 気にかかる大 - お化け 関心大 - チェルノブイリ発電事故 やや覚えている、覚えていない - 日本の電力手段 原発 - 一番危険を感じていること 自然災害 - 日本的リーダーシップ 好む - 原子力からの連想 電気、電力、発電 エネルギー 燃料、資源 - 環境関心 やや小 - 航空機等の有用性 大 - 航空機等の重要性 大 - 原発事故の影響 安全基準を超える放射線量	(注) 原発事故の影響、周辺の人々の 死傷は強いポジティブと共通

注 ネガティブ、ポジティブの特色のうち~~~~を付したものはよりネガティブ、
よりポジティブの特色、無印は中間の意見に近い
表28のうち、ここにあげていないものは中間的意見

表 29 原子力発電に対する好意的・非好意的（ポジティブ・ネガティブ）意見群の特色

第IV軸に属性間の分離が両極に示され原子力発電に対する態度と無関係な軸となり、特に興味ある情報とならなかった。つまり、一つの極として（60歳以上、中卒、不安大、チェルノブイリ発電事故覚えていない）があらわれ、他の極として（中間的回答多い、大卒、不安なし、18-39歳）があらわれている。

以上により、諸意見がどういう構造をもっているか掴むことができた。また、原子力発電に対する好意的（ポジティブ）・非好意的（ネガティブ）が、他の諸意見とどういう関連があるかも知ることができた。

これがポジティブ・ネガティブの内に包む性格であると見ることができる。こうして、意見の構造を知ることができたので、次に第III軸までを用いこれをもとに人々の類型化を考えてみよう。

6.2 人々の類型化

6.2.1 無関心層

人々の回答パターンがあるので、III類で与えられたアイテム・カテゴリースコアをもとに人々の各次元に応じたスコアを計算してみるのが出発点である。

第I軸のスコアの分布を計算し、これから無関心層に属する人々を分離する。このため分布の特色を見て段落のあるところを分点としてそれより大きいところの人々をこれに該当するものとした（図13）。13%の大きさとなる。この類型の特色は前に示した傾向的特色を持つと考えてよい。

6.2.2 強いポジティブ（好意的な）層の類別

次にこの人々を除き、第II軸の分布を求め分布の特色からみて強いポジティブの層を分類する（図14）。この大きさは13%（全体の構成比では11%）となる。

6.2.3 強いネガティブ（非好意的）層の類別

次に前2者をあわせ除いてIII軸の分布を求め、分布の形から強いネガティブの層を分離する（図15）。この大きさは12%（全体での構成比は9%）である。

6.2.4 その他のものの類別

この無関心層、強いポジティブ、強いネガティブの類型の全体での構成は13%、11%、9%となり、合計33%となる。残りのもの67%をこのI、II、III軸のままで分離することは適当でないのでII軸、III軸を用い次の考え方で類別を行うことにした。II軸、III軸の関係を図式的に画いてみると図16のようになる。

ポジティブ、ネガティブの中心を結ぶ直線はII軸、III軸の原点をやや外れるがこの直線はII軸、III軸を45度回転したとき平行関係になるような形をしている。ポジティブ、ネガティブの中心を結ぶ直線上に個人得点を投影すれば1次元的にポジティブ・中間・ネガティブを類別できることがわかる。そこで、これら67%のグループの人々のII・III軸のサンプルスコアの平均値を出し、軸の原点をそこへ移し45度、軸を回転しそれにそれぞれの意見を投影した数値つまり1次元の数値を用い分類することを試みた（図17）。

分布の特色により分点を定めやや肯定、中間、やや否定の3群を作った。

6.2.5 類型化されたものの特色

こうして人々の類型化によって得られた6群の全体の中に占める比率は次のようになる。

無関心層	13%	} 67%
強い好意的（ポジティブ）層	11%	
やや好意的（ポジティブ）層	12%	
中間層	50%	
やや非好意的（ネガティブ）層	5%	
強い非好意的（ネガティブ）層	9%	

2/3の人々が、「やや」と「中間」とになることがわかる。それぞれのグループの特色は表29に示した意見を持つものが多いことになるが、中間はこの表のネガティブ、ポジティブの特色の中の無印の（下線のない）意見及び表28のうち表29にない意見を多く示すものと考えてよい。

このようにして、それぞれの層の性格が分かってきたので対応の仕方は単純であるべきではなく、夫々異なるものがあると考えるのが至当である。

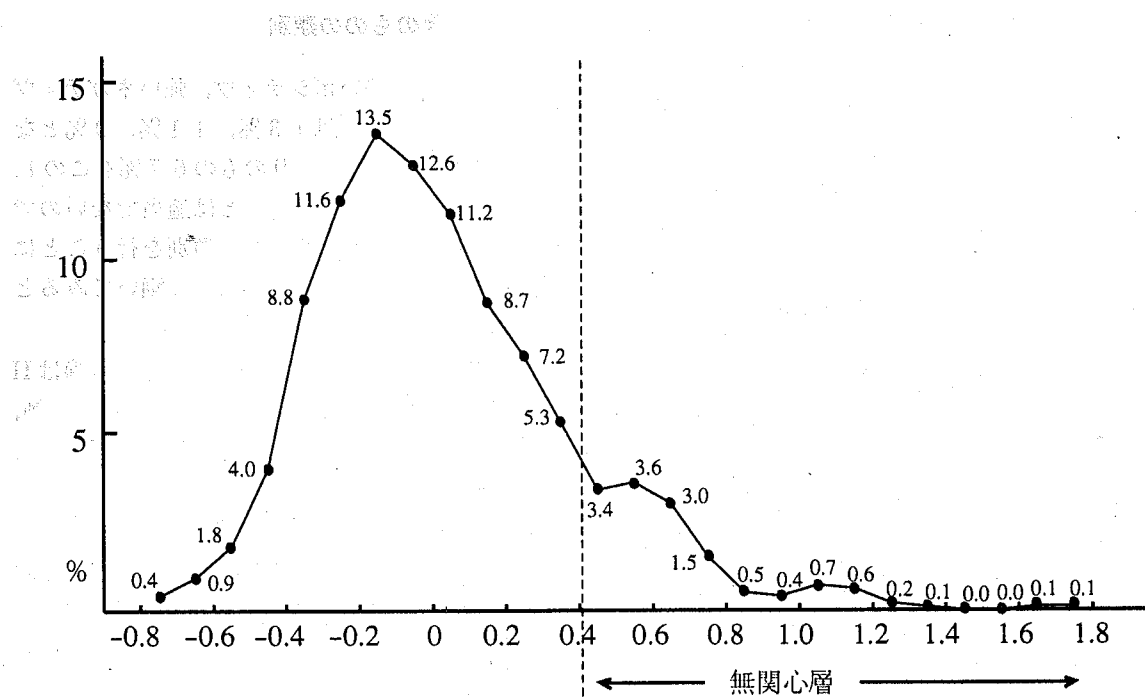


図 13 I 軸のサンプル・スコアの分布

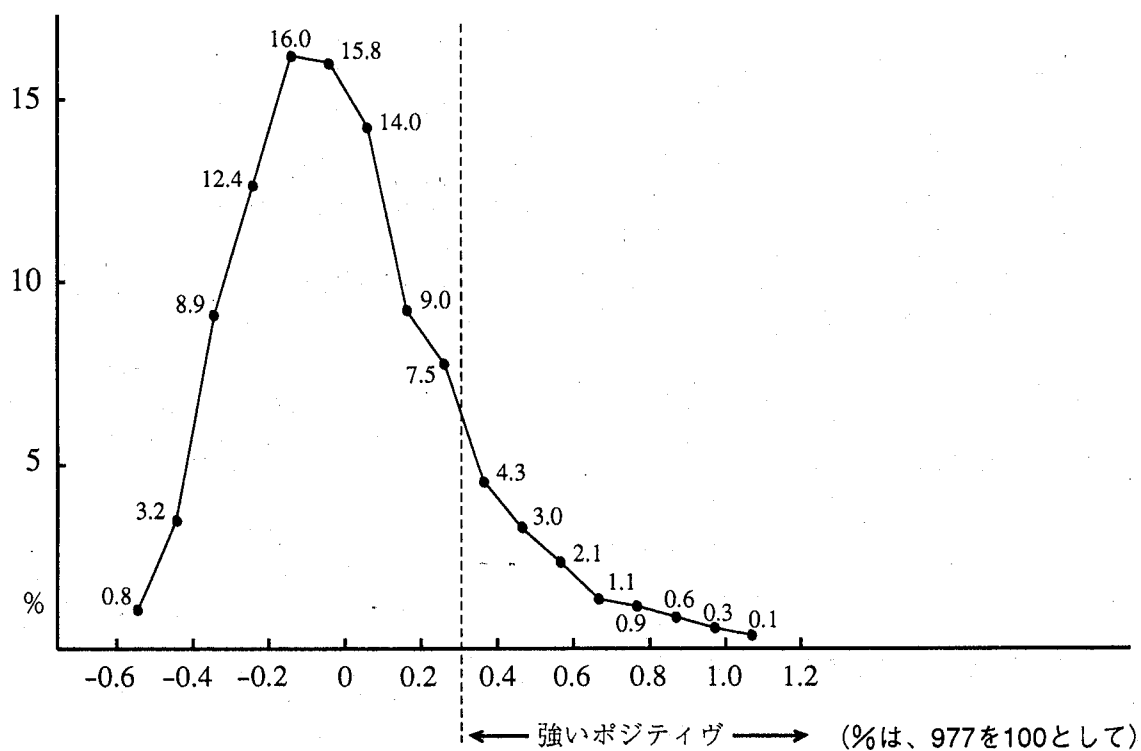


図 14 II 軸のサンプルスコア分布 (無関心層を除く)

ポジティブ、ネガティブで割り切るのは好ましくないことは前に示したが、他との比較のために仮に計算すると、

無関心層	13%
肯定層	23%
中間層	50%
否定層	14%

という形になる。中間が半分存在することになる。

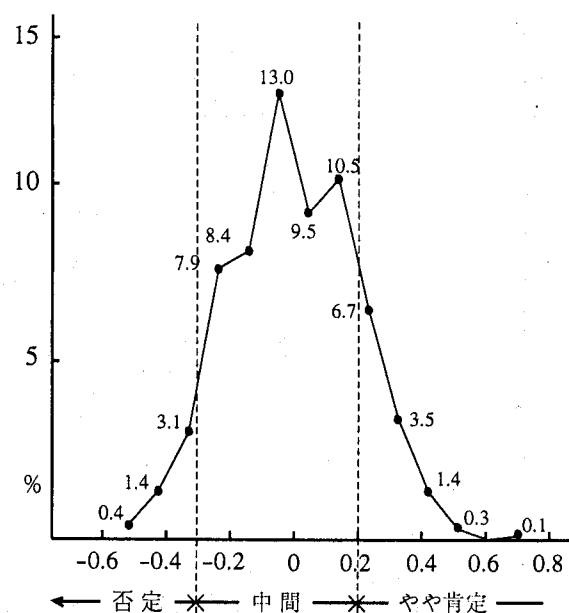
なお、上記6層の属性別特色は表30に示しておく。多数を占める日本人的性格を持つ日本人の平均層とも言える「原子力発電に対する中間的意見層」（中間層）に注目してみよう。これは、原子力発電は止むを得ないとして認める意見をもつものに重なり合うものである。この層は消極的肯定であるから、何か大きな事故（特に人身事故）が起こったとしたら非好意的なものに移ってしまうことが大いにありうる。無関心層も非好意的にかたむくことが考えられるので（この傾向のあることが次章で示される）非好意的意見が圧倒的多数に上り、原子力発電は不可能になることが考えられる。こうなると事故を起こした電力会社の崩壊にとどまらず電力不足により日本の経済が低下し、国そのものが危険な状態におちいることになる虞がある。順調に動いているときは問題がないが、中間層はこうした危険を常に孕んでいることに思い致す必要があろう。

7. 「原子力発電に対する態度」と「発電側の対応」の関連

ここでは、前章でのべた原子力発電に対する人々の6つの類型と5.でのべた発電側の対応との関連性を分析してみることにする。これは、大事故もなく比較的順調に発電が行われる位技術及び管理がしっかりしていると見做されている現状において得られたデータに基づく対応のあり方を意味するものである。

7.1 6類型と説得パターン・A社、B社に対する類型

人々が6タイプのどれに属するか、説得パターンではどのようなパターンに属するか、A社・B社に対する類型ではどこに属するか、というデータをもとに数



(比率は、全サンプル1138を100%として)

図17 回転後の軸についてのサンプルスコア分布

量化III類を行ってみた。その結果を図18に示す。

第I軸において、原子力発電のポジティブ・ネガティブが分離される。しかし、第II軸まで加味するとU字型構造をなし、対応まで考えると本質的には、1次元スケールとなっていることを意味する。

強いポジティブには「FTX」という情緒的反応を示さぬものがあり、全面的に納得を示すものはポジティブのものと強いポジティブとの中間に位置することを示している。ポジティブにはA社、B社の態度をともに高く評価しているものがある。強いネガティブでは、A社の評価低く、B社の評価も低い。A社よりはB社をより高く評価する意見が来ている。

無関心層はネガティブ層と似たところにあり、A、B両社の意見をともに低く評価し、説明には納得しない傾向を示している。

中間に位置するものは、B社の態度を高く評価する意見、情緒的な面Eを大事にする納得パターン（それ以外に「キ」、「ク」も近くにあるが、「ク」は少数意見で技術的対策Tにのみ納得を示すもの、「キ」は

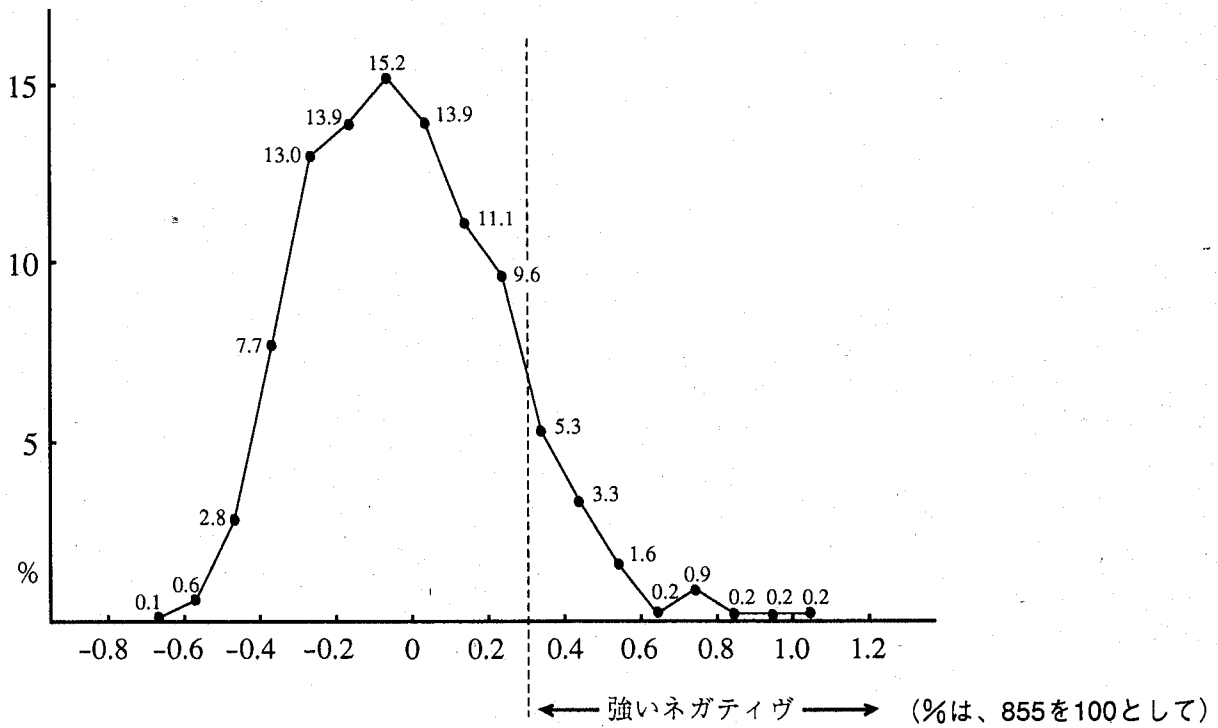


図 15 III 軸のサンプルスコア分布（無関心，強いポジティブを除く）

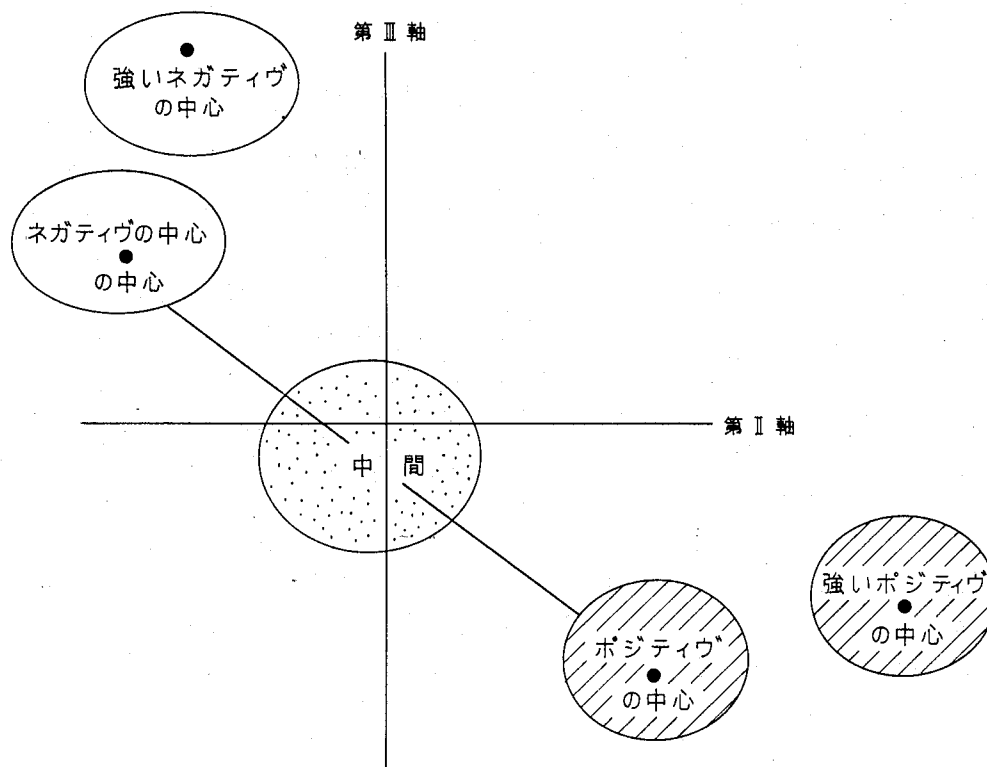


図 16 模型的图示

年間放射線量の説明Fに納得を示すもの)が近くに位置するものである。このような傾向からみると最も理解を求めやすい中間の層に対する説明のあり方が見えてくることであろう。論理的(技術的)な説明よりも情緒的な面Eと事実Fの面を大事にする必要がある。すでにポジティブな層には論理的なものTを前面に出すことは事実Fの提示と共に適切な考え方であろう。

A社の説明を高く評価するものは、強いポジティブ、強いネガティブ寄りの意見である。

こうみえてくると、「会社側の対応は一本調子のものでなく、多様なあり方が重要である」ということになる。ターゲットをどこに置くかによって説得の方法が異ならねばならないことを示している。

次に第III軸をみると、無関心層が分離し、A社、B社に対してともに高くあるいは低く評価するというものが来て無性格の様相を示している。

一応、これからみると、無関心層13%、強いネガティブ9%、ネガティブ5%、計27%の説得はなかなか困難であり、従来の考え方や、ここで示したA社、B社のような説明では無理なものと考えてよい。これに対しては「表29において示したそれらの群の特色」に根ざした説得を模索すべきであろうと思う。

7.2 上述のものにマスコミを加えた場合

次にこれにマスコミ接触度・信頼度(9)を加えて数量化III類により分析を行ってみる。

図19にこれを示した。

ポジティブ、ネガティブの布置については、大局的には異なるところはない。マスコミの位置に注意されたい。マスコミに対するものに目を向けると、ポジティブ(強い、ややともに)の近くには接触・信頼ともに高いことが来ており、いずれかが高い—そのとき対になる片方は中程度—という傾向が見られる。

強いネガティブの近くには、接触・信頼において接触は高くとも信頼が低いというものが来ている。

無関心層は、接触・信頼ともに低い傾向が見られ

る。ネガティブ層、中間にある層の近くには、接触中程度、信頼は中位か低い、接触は低いが信頼度高いという傾向が見出される。

総合的にながめる時マスコミが原子力発電にネガティブに作用しているという姿は全く見られない。

8. まとめ

原子力発電のようなものにおいては、少なくとも日本では、そのみの態度を論理的(ロジカルと言ったほうがよい)に追究し直接的に対応を考えたとしても、解決を得ることは難しい。原子力発電に対する態度には、一見それと無関係なものが結びついてダイナミックな態度構造を形成していることが示された。これを詳しくみると原子力発電に対する好意的(ポジティブ)・非好意的(ネガティブ)な態度のほかは無関心層や中間層があることがわかりそれぞれの層には、その性格を示すさまざまな心理的特色のあることが解明された。ここまで明らかになると、それに対する発電側の対応のあり方が見えてくる。この多様性の一端が7.において示されたのである。

9. 謝 辞

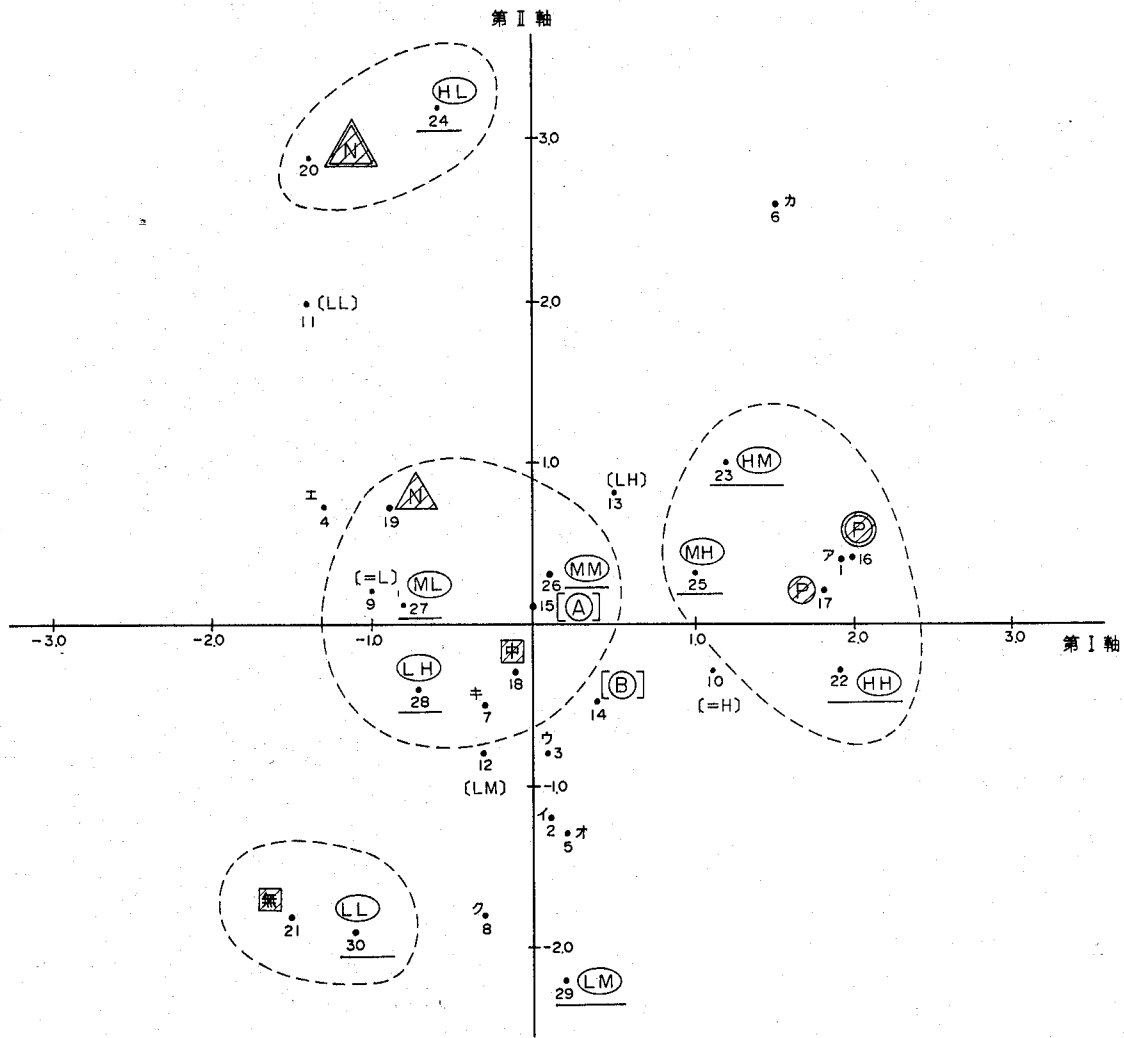
この研究を遂行するに当たって、社会システム研究所のほか輿論科学協会の加留部清氏(帝京大学)、渥美欣三氏、林文氏(東洋英和女学院大学)、山岡和枝氏(帝京大学)にお世話になった。深く感謝するものである。

参考文献

- (1) Benzecri, J.-P. : L'Analyse des Données, Dunod, 1973.
- (2) Hayashi, C.: Theory and Example of Quantification (III), Proc. of the Inst. Statist. Math., Vol.4, 19-30 1956.
- (3) Hayashi, C. : Quantitative Social Research—Belief Systems, The way of Thinking and Sentiments of Five Nations, Behaviormetrica Vol.19, No.2, 127-170 1992.
- (4) Hayashi, C.: Quantification Method III or Correspondence Analysis in Medical Science, Ann. of Cancer Research and Therapy, Vol.1,

	N	強い肯定	やや肯定	中間	やや否定	強い否定	無関心
総 数	4676	499 10.7	569 12.2	2343 50.1	236 5.0	431 9.2	598 12.8
【性別】							
男 性	2214	401 18.1	331 15.0	957 43.2	74 3.3	284 12.8	167 7.5
女 性	2462	98 4.0	238 9.7	1386 56.3	162 6.6	147 6.0	431 17.5
【年齢別】							
18～29歳	1121	73 6.5	137 12.2	615 54.9	32 2.9	64 5.7	200 17.8
30～39歳	967	109 11.3	115 11.9	497 51.4	59 6.1	72 7.4	115 11.9
40～59歳	1937	217 11.2	210 10.8	965 49.8	123 6.4	239 12.3	183 9.4
60歳以上	651	100 15.4	107 16.4	266 40.9	22 3.4	56 8.6	100 15.4
【性・年齢】							
男 性 計	2214	401 18.1	331 15.0	957 43.2	74 3.3	284 12.8	167 7.5
18～29歳	486	63 13.0	91 18.7	248 51.0	15 3.1	39 8.0	30 6.2
30～39歳	413	77 18.6	62 15.0	171 41.4	15 3.6	51 12.3	37 9.0
40～59歳	962	200 20.8	117 12.2	410 42.6	34 3.5	150 15.6	51 5.3
60歳以上	353	61 17.3	61 17.3	128 36.3	10 2.8	44 12.5	49 13.9
女 性 計	2462	98 4.0	238 9.7	1386 56.3	162 6.6	147 6.0	431 17.5
18～29歳	635	10 1.6	46 7.2	367 57.8	17 2.7	25 3.9	170 26.8
30～39歳	554	32 5.8	53 9.6	326 58.8	44 7.9	21 3.8	78 14.1
40～59歳	975	17 1.7	93 9.5	555 56.9	89 9.1	89 9.1	132 13.5
60歳以上	298	39 13.1	46 15.4	138 46.3	12 4.0	12 4.0	51 17.1
【学歴別】							
小・中学校卒	664	44 6.6	87 13.1	266 40.1	43 6.5	76 11.4	148 22.3
高校卒	2467	193 7.8	306 12.4	1295 52.5	164 6.6	161 6.5	348 14.1
大学卒	1505	262 17.4	166 11.0	770 51.2	29 1.9	189 12.6	89 5.9
無回答	40	-	10 25.0	12 30.0	-	5 12.5	13 32.5
〇〇主義+支持政党							
民主・資本主義よい	1884	355 18.8	308 16.3	938 49.8	35 1.9	151 8.0	97 5.1
時と場合による	1843	79 4.3	174 9.4	935 50.7	121 6.6	183 9.9	351 19.0
社会主義よい	949	65 6.8	87 9.2	470 49.5	80 8.4	97 10.2	150 15.8
無回答		-	-	-	-	-	-
【居住地域】							
市 部	4000	425 10.6	495 12.4	2035 50.9	210 5.3	375 9.4	460 11.5
郡 部	676	74 10.9	74 10.9	308 45.6	26 3.8	56 8.3	138 20.4

表 30 属性別類型分布



1 納得パターン

- 1 F-T-E
- 2 X-T-E
- 3 X-X-E
- 4 X-X-X
- 5 F-X-E
- 6 F-T-X
- 7 F-X-X
- 8 X-T-X

2 A社・B社評価 (新)

- 9 A=B, N [= L]
- 10 A=B, P [= H]
- 11 A0-2, B3-5 [L L]
- 12 A0-2, B6-8 [L M]
- 13 A0-2, B9-10 [L H]
- 14 A<B [(B)]
- 15 A>B [(A)]

3 STEP 6 分類

- 16 強い肯定
- 17 やや肯定
- 18 中間
- 19 やや否定
- 20 強い否定
- 21 無関心
- 22 マスコミ接触+信頼
- 23 接触H・信頼H
- 24 接触H・信頼M
- 25 接触M・信頼H
- 26 接触M・信頼M
- 27 接触M・信頼L
- 28 接触L・信頼H
- 29 接触L・信頼M
- 30 接触L・信頼L

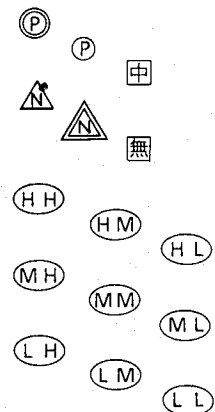


図 19 原子力発電に対する態度，安全性納得，マスコミ接触・信頼 (I 軸，II 軸カテゴリースコア布置)

No.1, 1993 17-21.

(5) 林 知己夫 : 日本人の国民性 Phase 1993. 64-96 1993.

(6) 林 知己夫 : 行動計量学序説 朝倉書房 1993

(7) 林 知己夫 : 数量化—理論と方法— 朝倉書房 1993

(8) Hayashi, C., T. Suzuki and S. Sasaki,
: Data Analysis for Comparative Social Research; International Perspectives, Elsevier, North Holland 1992.

(9) Lebart, L., A. Morineau and K. M. Warwick: Multivariate Descriptive Statistical Analysis, John Wiley 1984

(10) 日本人研究会篇 : 世論とは何か, 日本人研究 4, 至誠堂 1976

付 録

付録1 調査概要

付録2 調査票と単純集計結果

付 録

1. 調 査 概 要

〔1〕京阪神地域住民意識・態度調査

(1) 調査地域

滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県と
福井県のうち小浜市、三方郡、大飯郡、遠敷郡

(2) 調査対象

18才以上79才以下の男女

(3) 標本設計

① 標本数 市部 1060 郡部 440 計 1500標本

② 標本抽出 層別2段系統抽出

市部、郡部の2層に分け、それぞれ下記のように抽出する

	市 部	郡 部
一次抽出	18才～79才の男女 340人が含まれるグループを1調査ユニットとし、38,641ユニットにわけ、この中から53の調査ユニットを系統抽出する。	18才～79才の男女 140人が含まれるグループを1調査ユニットとし、14,877ユニットにわけ、この中から22の調査ユニットを系統抽出する。
二次抽出	1調査ユニット内から抽出インターバル17で対象者20を系統抽出する。	1調査ユニット内から抽出インターバル 7で対象者20を系統抽出する。

③標本抽出台帳は住民基本台帳としたが、その閲覧不能地点については、現地抽出した。

(4) 調査方法 質問紙配布留置自記式（質問紙は付録2. 調査票と単純集計結果参照）

(5) 調査期間 平成 5年 1月15日（金）～ 2月15日（月）

(6) 回収標本数および未完理由内訳

	設 計 標本数	回 収 標本数	未 完 標本数	未 完 理 由				
				拒否	不在	不明	転居	その他
計	1500	1138	362	236	91	19	13	3
	100.0	75.9	24.1	15.7	6.1	1.3	0.9	0.2
市 部	1060	800	260	170	65	14	9	2
	100.0	75.5	24.5	16.0	6.1	1.3	0.8	0.2
郡 部	440	338	102	66	26	5	4	1
	100.0	76.8	23.2	15.0	5.9	1.1	0.9	0.2

(不明：住所不明、転居：本人のみ転居を含む)

(なお、母集団、設計標本、回収標本構成は別表の通りである。)

(7) 集計

市部と郡部とで抽出比が異なるので、結果が母集団の縮図となるよう抽出比の逆数の比に基づきウェイト値を定め集計した。

	(7) 抽出比の逆数	(7) の比	ウェイト値
市部	$13,184,019 / 1,060 = 12,437.8$	2.57	5
郡部	$2,127,288 / 440 = 4,834.7$	1	2

(8) 対象集団、設計標本、回収標本構成

表の通り

〔 表 〕

市 部

	母 集 団 *		抽 出 標 本		回 収 標 本	
	人 口	構 成 比	抽 出 数	構 成 比	回 収 数	構 成 比
男性 18-19才	328,229	2.5	25	2.4	19	2.4
20代	1,309,580	9.9	95	9.0	67	8.4
30代	1,128,552	8.6	95	9.0	69	8.6
40代	1,460,300	11.1	121	11.4	92	11.5
50代	1,134,701	8.6	97	9.2	72	9.0
60代	693,586	5.3	57	5.4	42	5.3
70代	368,551	2.8	23	2.2	15	1.9
男性 計	6,423,499	48.7	513	48.4	376	47.0
女性 18-19才	321,845	2.4	9	0.8	7	0.9
20代	1,323,634	10.0	122	11.5	104	13.0
30代	1,149,885	8.7	119	11.2	92	11.5
40代	1,498,093	11.4	133	12.5	104	13.0
50代	1,144,969	8.7	84	7.9	63	7.9
60代	808,229	6.1	65	6.1	47	5.9
70代	513,865	3.9	15	1.4	7	0.9
女性 計	6,760,520	51.3	547	51.6	424	53.0
合 計	13,184,019	100.0	1,060	100.0	800	100.0

郡 部

	母 集 団 *		抽 出 標 本		回 収 標 本	
	人 口	構 成 比	抽 出 数	構 成 比	回 収 数	構 成 比
男性 18-19才	40,667	1.9	7	1.6	5	1.5
20代	154,331	7.3	34	7.7	23	6.8
30代	182,462	8.6	43	9.8	34	10.1
40代	227,879	10.7	57	13.0	43	12.7
50代	183,696	8.6	36	8.2	28	8.3
60代	151,151	7.1	33	7.5	27	8.0
70代	83,712	3.9	10	2.3	7	2.1
男性 計	1,023,898	48.1	220	50.0	167	49.4
女性 18-19才	40,663	1.9	9	2.0	7	2.1
20代	162,710	7.6	43	9.8	33	9.8
30代	188,063	8.8	58	13.2	47	13.9
40代	225,173	10.6	54	12.3	45	13.3
50代	187,196	8.8	37	8.4	25	7.4
60代	175,903	8.3	16	3.6	12	3.6
70代	123,682	5.8	3	0.7	2	0.6
女性 計	1,103,390	51.9	220	50.0	171	50.6
合 計	2,127,288	100.0	440	100.0	338	100.0

* 対象集団人口は平成2年10月1日現在（国勢調査結果による）

付 録

2. 調査票と単純集計結果

1993年1月

科学技術の発達とわたしたちのくらし

層 地 点 個 番

--	--	--	--	--	--

現代社会意識に関する研究会
 代表者 統計数理研究所名誉教授
 林 知己夫
 事務局 社団法人 輿論科学協会

<記入の仕方>

- (1) 問1から順に最後までお答えください。
- (2) 青または黒色の筆記具でご記入ください。
- (3) ・多くの質問には、回答が用意してあります。あなたのお考えに近い回答を選び、その番号に○をつけてください。
 「その他（ ）」にあてはまる場合には、（ ）の中に、具体的にご記入ください。
 ・いくつか、回答の用意してない質問があります。この場合には、ご自由にご意見を記入してください。
- (4) 問16(3)、問30の2問は、添付してあるシールを使い各問5コずつをはりつけてご回答ください。
- (5) 欄外の⑦、⑧、⑨……等の数字は、回答結果を電算集計するための記号です。ご回答に当たっては無視してください。
- (6) ご記入済みのアンケート用紙は、後日、調査員がいただきにあがりますので、お手渡してください。
- (7) ご質問、ご不明の点などありましたら、下記宛、ご遠慮なくおたずねください。

現代社会意識に関する研究会
 事務局 社団法人 輿論科学協会

本部 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-8-6
 電話 03-3401-1131
 フリダイヤル 0120-401401 (担当 北條 真)

大阪事務所 大阪市中央区徳井町2-2-14
 電話 06-941-2290 (担当 矢倉 明)

注 [3つ並んだ数字は左または上から順に 計、市部、郡部の回答率(%)]

問1 あなたは新聞やテレビのニュースをよくごらんになるほうですか。

1 よくみる	71.2	71.4	69.8	4 みない	0.6	0.8	—
2 たまにみる	17.8	17.6	18.6	5 どちらともいえない	5.8	5.9	5.6
3 あまりみない	4.2	4.0	5.3	無回答	0.4	0.4	0.6

問2 あなたが定期的にお読みになっている新聞をつぎの中からいくつでもお知らせください。

通勤・通学途中にだいたい毎日購読しているものも含めてお知らせください。

1 朝日新聞	28.1	27.1	33.7	8 奈良新聞	0.8	0.4	3.3
2 毎日新聞	18.2	19.0	13.3	9 赤旗	1.4	1.4	1.8
3 読売新聞	26.2	26.5	24.3	10 スポーツ新聞	16.3	16.5	14.8
4 産経新聞	16.6	17.5	11.5	11 夕刊専門紙	1.5	1.5	1.5
5 日本経済新聞	10.8	11.1	9.2	12 その他	5.0	4.1	10.1
6 京都新聞	8.0	8.0	8.0	13 定期的に読む新聞はない	3.5	3.6	2.7
7 神戸新聞	8.4	7.4	14.8				

問3 あなたがふだんよくお読みになる新聞記事はどのようなものですか。

次の中からいくつでもけっこうですからお知らせください。

1 スポーツ	60.6	60.4	61.8	14 テレビ・ラジオ番組表	73.2	73.3	72.8
2 芸能・娯楽	39.7	40.3	36.7	15 テレビ・ラジオ番組解説	29.7	30.4	26.0
3 家庭(料理・育児・医学等)	34.8	35.6	29.9	16 小説	7.8	7.9	7.7
4 投書	23.0	23.4	20.7	17 社説・コラム	21.3	21.8	18.3
5 人生相談	16.2	16.1	16.9	18 天気予報	38.4	39.4	32.5
6 文化・学芸	15.7	16.3	12.7	19 囲碁・将棋・俳句・短歌等	7.0	7.1	6.2
7 科学・医学	24.1	25.0	18.9	20 地方版	32.5	29.8	48.5
8 経済・株式・利殖・投資	25.1	25.0	25.4	21 広告	22.2	22.6	19.5
9 事件・犯罪(三面記事)	66.0	65.8	67.8	22 広告特集版	4.3	4.4	3.8
10 政治・国際問題	37.9	38.1	36.7	23 日曜特集版	14.0	14.5	10.9
11 特集記事	21.0	21.8	16.6	24 その他	1.0	1.1	9.3
12 マンガ	16.5	16.5	16.6	25 よく読む新聞記事はない	1.4	1.5	0.9
13 レジャー・趣味	26.6	28.3	16.6				

問4 あなたがふだんよくごらんになっているテレビ局をいくつでもお知らせください。

1 NHK総合テレビ	66.4	65.1	73.7	9 京都放送	9.2	9.5	7.1
2 NHK教育テレビ	24.5	24.9	22.2	10 サンテレビ	21.0	22.1	14.5
3 毎日テレビ	75.8	75.9	75.1	11 奈良テレビ	2.6	1.8	7.7
4 ABCテレビ	75.9	76.8	70.7	12 テレビ和歌山	2.8	2.0	7.4
5 関西テレビ	77.9	78.1	76.3	13 衛星放送テレビ	9.8	8.8	15.7
6 読売テレビ	72.5	72.3	74.3	14 その他	0.4	0.5	—
7 テレビ大阪	26.9	29.8	10.1	15 よくみるテレビ局はない	2.0	2.1	1.5
8 びわ湖放送	2.6	2.0	5.9				

問5 あなたがふだんごらんになるテレビ番組の種類をつぎの中からいくつでもお知らせください。

1 ドラマ	58.4	57.6	63.3	11 ワイドショー	31.4	30.8	35.2
2 スリラー・サスペンス	28.9	29.4	26.3	12 コント・バラエティ	22.9	23.4	20.1
3 時代劇	30.2	29.6	33.7	13 ファッション・流行情報番組	9.2	9.3	8.6
4 映画	52.0	53.3	44.4	14 音楽番組	30.6	30.9	29.3
5 ニュース	77.7	78.1	75.1	15 寄席・演芸	22.3	22.3	22.5
6 ローカルニュース	25.7	25.9	24.9	16 トーク番組	29.7	30.5	24.9
7 科学番組	16.7	17.5	11.8	17 クイズ	46.4	47.0	42.9
8 観光紀行番組	32.1	32.5	29.6	18 プロ野球	42.7	42.5	43.8
9 ドキュメンタリー	45.9	47.1	38.8	19 その他スポーツ番組	37.0	37.0	37.3
10 料理番組	30.0	30.1	29.6	20 その他	2.4	2.6	1.2

問6 よくお読みになる週刊誌がありますか。あればそれは何々ですか。

1 週刊朝日	5.8	5.6	6.8	11 anan(アンアン)	3.8	4.0	2.7
2 サンデー毎日	3.5	3.3	5.0	12 FOCUS(フォーカス)	4.6	4.5	5.0
3 週刊読売	2.4	2.5	2.1	13 FRIDAY(フライデー)	5.4	5.6	4.1
4 週刊新潮	6.8	7.4	3.3	14 ぴあ	2.8	3.0	1.8
5 週刊文春	5.8	6.3	3.0	15 AERA(アエラ)	2.7	3.0	0.9
6 週刊現代	4.1	4.1	4.1	16 少年ジャンプ	10.0	9.9	10.7
7 週刊ポスト	6.0	5.9	6.5	17 その他	7.4	7.4	7.4
8 週刊女性	5.3	5.3	5.3	18 よく読む週刊誌はない	50.2	50.0	51.5
9 女性自身	8.8	8.9	8.3				
10 女性セブン	5.3	5.5	4.4				

問7 定期的に購読している月刊誌がありますか。あればその誌名をご記入ください。

1 定期購読月刊誌名		18.3	18.0	20.1
2 定期的に購読している月刊誌はない		77.0	77.5	74.3
無回答		4.7	4.5	5.6

問8 マスコミのニュース報道にあなたはどの程度信頼がおけるとお考えですか。

つぎのそれぞれについてお答えください。

	とても 信頼	できる すこし 信頼	どちら とも いえない	あまり 信頼 できない	まったく 信頼 できない	無 回 答
ア 新聞(朝日・読売・毎日等全国紙)	25.6 25.8 24.6	50.0 50.0 50.3	18.2 18.3 18.0	3.2 3.1 3.6	0.4 0.4 0.3	2.6 2.5 3.3
イ 新聞(京都・神戸・奈良等地方紙)	14.7 14.8 14.2	38.3 36.8 47.3	30.5 31.1 26.9	4.0 4.0 3.8	0.5 0.5 0.3	12.1 12.9 7.4
ウ NHK	34.5 35.1 30.8	42.6 42.3 45.0	17.2 17.1 17.5	2.9 2.8 3.8	0.3 0.3 0.3	2.5 2.5 2.7
エ 民放テレビ・ラジオ	11.0 11.1 10.4	40.7 40.4 42.3	34.3 34.3 34.6	7.3 7.5 5.9	0.6 0.8 —	6.1 6.0 6.8
オ 衛星放送	9.7 9.5 10.7	23.4 22.1 31.1	41.6 41.6 41.7	2.4 2.5 1.5	0.5 0.5 0.3	22.5 23.8 14.8
カ 週刊誌・月刊誌	0.7 0.6 0.9	10.0 9.3 14.2	34.0 33.4 37.6	40.3 41.4 34.0	7.3 7.4 6.8	7.8 8.0 6.5

問9 最近、国内や国外、地球全体の環境問題がよく報道されています。

あなたは、この問題にどの程度関心がありますか。

1 関心がある	41.3	41.6	39.6	3 あまり関心がない	8.9	8.9	9.2
2 すこし関心がある	47.6	47.5	47.9	4 関心がない	2.0	1.9	3.0
				無回答	0.1	0.1	0.3

問10 こういう意見があります。

「世の中は、だんだん科学や技術が発展して、便利になって来るが、それにつれて人間らしさがなくなって行く」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

1 賛成(人間らしさはへる)	32.0	31.9	32.8	3 反対(人間らしさ不変、ふえる)	3.5	3.6	3.0
2 いちがいにはいえない	62.6	62.6	62.7	4 その他	1.0	1.0	0.9
				無回答	0.8	0.9	0.6

問11 環境問題を考えて、お宅あるいはあなたがしていることが次の中にあれば、いくつでもお知らせください。

1 音が小さい洗濯機・掃除機・ドライヤーなどを使っている	16.4	16.9	13.6
2 省エネ型の家電製品を使っている	20.1	20.6	16.9
3 ふだんから電気やガスはこまめに消すほう	66.6	67.4	62.1
4 暖房や冷房はひかえめにしている	55.9	56.8	50.6
5 食用油は流さず紙でふきとるようにしている	58.7	60.1	50.6
6 過剰包装の商品は買わないようにしている	17.0	17.8	12.7
7 買物の際、買物カゴ・買物袋を持って行くようにしている	17.5	18.8	10.1
8 缶入りや紙パックのものよりビン入りのものを選ぶ	7.8	7.6	9.2
9 再生紙利用の商品で使っているものがある	43.1	44.4	35.5
10 生ゴミは庭に埋めている	7.6	4.6	25.4
11 フロンガス使用のスプレーは使わない	34.5	35.9	26.6
12 風呂の残り湯を洗濯に利用している	34.5	35.1	30.5
13 割り箸は極力使わないようにしている	27.7	27.6	27.8
14 有機栽培や無農薬野菜を選んで買うようにしている	23.1	23.1	22.8

問12 私達が社会生活を送っていくうえで、いろいろ「危険なこと」が考えられます。

次のような危険といたら何を思い浮かべますか、(7)(f)(g)(e)のそれぞれについて具体的にお答えください。

(7) 自然災害

回 答 略

(f) 自分ではどうすることもできなくて、思いがけなくまき込まれる人為的災害

回 答 略

(g) 自分がしたいことをしたり、しなければならぬことをする時に、起きるかもしれない人為的危険

回 答 略

(e) いまお答えいただいたものの中で、あなたが一番危険だと感じているものを一つだけお知らせください。

回 答 略

- 問13 ときどき、自分自身のことや家族のことで不安になることがあります。あなたは、次のような危険について不安を感じることがありますか。

	非常に感じる	かなり感じる	少し感じる	まったく感じない	その他	無回答
ア まず、「重い病気」の不安はどの程度でしょうか。	29.7	26.2	37.7	5.4	0.3	0.8
	29.8	26.4	37.3	5.5	0.3	0.9
	29.6	24.9	40.2	4.7	0.3	0.3
イ では、「交通事故」についてはどうでしょうか。	39.9	33.4	23.5	2.1	—	0.9
	39.0	33.8	24.0	2.3	—	1.0
	45.6	31.7	20.7	1.5	0.3	0.3
ウ では、「失業」についてはどうでしょうか。	10.7	14.0	40.6	28.9	2.9	2.8
	10.8	13.8	41.3	28.6	2.8	2.9
	10.4	15.7	36.7	30.8	3.8	2.7
エ では、「戦争」についてはどうでしょうか。	17.7	14.3	42.4	23.0	1.2	1.4
	17.8	13.9	43.0	23.1	1.0	1.3
	17.5	16.9	38.8	22.2	2.7	2.1
オ では、「原子力施設の事故」についてはどうでしょうか。	19.9	24.7	41.8	10.9	1.6	1.2
	19.6	24.5	42.4	10.9	1.4	1.3
	21.3	25.7	38.2	10.9	2.7	1.2

- 問14 こういう意見があります。

「どんなに世の中が機械化しても、人の心の豊かさ（人間らしさ）はへりはしない」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

1 反対（へる）	26.3	26.0	27.8	4 その他	1.0	1.1	0.6
2 いちがいいにはいえない	58.1	58.0	58.6	無回答	0.4	0.4	0.6
3 賛成（へらない）	14.2	14.5	12.4				

- 問15 自然と人間との関係について、つぎのような意見があります。

あなたがこのうち真実に近い（ほんとうのことに近い）と思うものを、1つだけ選んでください。

1 人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない	37.4	37.6	36.1
2 人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない	47.8	47.0	52.7
3 人間が幸福になるためには、自然を征服していかなければならない	3.5	3.5	3.6
4 その他	8.3	8.8	5.3
無回答	3.0	3.1	2.4

- 問16 (1) 科学技術の発達が人々の生活にもたらした「よい点（プラスの点）」は、何々だと思いますか。

あなたが「よい（プラス）」と思うことを、できるだけ具体的にお知らせください。

回 答 略

- (2) では、科学技術の発達が人々の生活におよぼした「悪い点（マイナスの点）」は、何々だと思いますか。

あなたが「悪い（マイナス）」と思うことを、できるだけ具体的にお知らせください。

回 答 略

- (3) 科学技術の発達が人々の生活に与えたことには、プラス、マイナスの両面があると思います。
 科学技術の発達が人々の生活に与えたプラス・マイナスについて、あなたのお考えをおきします。
 ここにある5枚のシールを、あなたの気持ちに応じてプラス・マイナスの各々にふりわけ、下の枠内にはりつけてください。

平均	3.18	科学技術の発達は人々の生活に プラスである。	平均	1.78	科学技術の発達は人々の生活に マイナスである。
	3.17			1.79	
	3.23			1.74	
0 個		1 個	2 個	3 個	
0.1		3.1	14.5	48.0	
—		3.3	14.9	47.9	
0.9		2.4	12.4	48.8	
		4 個	5 個	無回答	
		27.5	5.6	1.1	
		27.8	5.3	1.0	
		26.0	8.0	1.5	

- 問17 コンピュータがいろいろなところに使われるようになり、情報化社会などということが言われています。このような傾向が進むにつれて、日常生活の上で変わっていく面があると思います。あなたは、このような変化をどう思いますか。

1 望ましいことである	30.3	30.1	31.7
2 望ましいことではないが、避けられないことである	56.7	56.6	57.4
3 困ったことであり、危険なことでもある	3.9	3.8	5.0
4 その他	5.3	5.6	3.3
無回答	3.7	3.9	2.7

- 問18 「原子力」といったら、何を連想しますか。自由にお答えください。

回 答 略

- 問19 つぎにあげるア～ウの事柄についてあなたはどう思いますか。それぞれについてお答えください。

ア 病気の中には近代医学とは別の方法で治療したほうがよいものもある。

1 まったくそのとおりだと思う	14.9	15.1	13.9	5 その他	0.9	0.8	2.1
2 そう思う	57.7	58.8	51.2	無回答	1.4	1.5	0.6
3 そうは思わない	18.9	18.0	24.3				
4 決してそうは思わない	6.2	5.9	8.0				

イ 科学技術が発展すれば、いつかは人間の心の中までも解明できる。

1 まったくそのとおりだと思う	1.8	1.5	3.8	5 その他	1.4	1.5	0.6
2 そう思う	8.1	8.4	6.8	無回答	0.7	0.8	0.3
3 そうは思わない	59.9	59.8	60.7				
4 決してそうは思わない	28.1	28.1	27.8				

ウ 今日我々が直面している経済的、社会的問題のほとんどは科学技術の進歩により解決される。

1 まったくそのとおりだと思う	2.1	1.9	3.3	5 その他	0.8	0.9	0.6
2 そう思う	8.0	8.6	4.4	無回答	0.6	0.6	0.6
3 そうは思わない	67.2	66.8	69.8				
4 決してそうは思わない	21.3	21.3	21.3				

問20 つぎにあげることは今後25年の間に実現すると思いますか。

ア～エのそれぞれについてお答えください。

	たぶん実現する	実現する可能性は低い	実現しない	その他	無回答
ア まず、「原子力廃棄物の安全な処理方法」についてはどうですか。	28.2 28.6 25.7	52.8 53.0 51.5	15.5 14.9 18.9	2.6 2.5 3.3	0.9 1.0 0.6
イ 「ガンの治療方法の解明」についてはどうですか。	62.9 62.9 63.0	29.5 29.8 27.8	5.7 5.5 7.1	1.4 1.3 2.1	0.5 0.6 —
ウ 「老人性痴呆症(ぼけ)の治療方法の解明」についてはどうですか。	25.3 25.5 24.0	53.6 53.8 53.0	19.0 18.8 20.7	1.4 1.4 1.8	0.6 0.6 0.6
エ 「宇宙ステーションでの生活」についてはどうですか。	22.7 23.5 18.0	35.8 35.9 35.5	37.6 36.9 42.0	3.1 3.1 3.3	0.7 0.6 1.2

問21 次にあげる事柄は、あなたにとってどのくらい重要な問題ですか。

ア～オのそれぞれについてお答えください。

	非常に重要	重要	どちらともいえない	あまり重要でない	重要でない	無回答
ア 航空機(旅客用)の発達	10.3 10.6 8.6	28.3 28.5 27.2	28.8 28.5 30.8	23.4 22.9 26.3	7.8 8.0 6.5	1.4 1.5 0.6
イ エイズ問題	40.1 40.9 35.5	40.3 40.3 40.8	13.2 12.8 16.0	3.7 3.4 5.3	1.9 1.9 2.1	0.8 0.9 0.3
ウ 原子力発電	19.9 20.9 19.5	42.7 42.6 42.9	28.3 28.3 28.4	6.1 6.0 6.8	1.9 2.0 1.5	1.1 1.1 0.9
エ 臓器移植	20.5 20.8 18.9	37.4 37.1 39.3	30.9 30.9 31.4	6.4 6.1 7.7	3.8 4.3 1.5	0.9 0.9 1.2
オ 身近な環境保護	48.4 49.4 42.9	42.1 41.1 47.9	7.3 7.3 7.4	1.0 0.9 1.5	0.5 0.5 0.3	0.7 0.9 —

問22 では、これらの事柄は、今日の社会や人々の生活にとってどのくらい有用だと思いますか。

ア～オのそれぞれについてお答えください。

	非常に有用	有用	どちらともいえない	あまり有用でない	有用でない	無回答
ア 航空機(旅客用)の発達	24.0 24.5 21.3	48.8 48.0 53.6	18.4 18.5 17.8	6.4 6.4 6.2	1.2 1.3 0.9	1.2 1.4 0.3
イ エイズ治療法	65.8 66.4 62.7	26.3 26.0 28.4	5.6 5.4 6.8	0.8 0.9 0.6	0.4 0.3 1.2	1.0 1.1 0.3
ウ 原子力発電	28.2 28.4 26.9	39.8 39.5 41.4	24.2 24.1 24.6	4.1 4.0 4.4	2.7 2.8 2.4	1.1 1.3 0.3
エ 臓器移植	35.5 35.5 35.8	37.8 37.3 41.1	20.0 20.1 19.5	3.8 4.0 2.7	1.8 2.0 0.6	1.0 1.1 0.3
オ 身近な環境保護	61.8 62.6 57.1	31.5 30.9 34.9	4.9 4.6 6.8	0.6 0.5 0.9	0.1 0.1 0.3	1.1 1.3 —

問23 つぎにあげる事故や事柄についておたずねします。

ちなみに統計によれば、これらの事故によるわが国の1987年から1991年までの5年間の死者数は下記のようになっています。()内は外国の死者数です。

	5年間の死者数
ア 道路交通事故	53,109人
イ 列車・電車事故（踏切事故を含む）	2,200人
ウ 新幹線事故	0人
エ 大型航空機事故	13人*（1,205人）
オ エイズ	237人（'86年以前の分も含む）
カ 原子力発電事故	0人（61人**）

* 日本では旅客機大事故は'85年の日航事故（死者530人）以後起きていません。

** '86年のチェルノブイリ事故による'91年5月現在の死者数（旧ソ連政府発表の数字）です。被爆者総数は57万人超といわれています。それ以後死者を出す原子力発電事故は起きていません。

統計数字は上の通りですが、これとは別にあなたの気持ちに即してお答えください。

それぞれについてどの程度不安を感じていますか。

	非常に不安を感じる	かなり不安を感じる	少しは不安を感じる	まったく不安を感じない	その他	無回答
ア 道路交通事故	46.4 45.8 50.6	36.1 36.0 36.7	16.4 17.1 12.1	0.3 0.3 0.3	0.2 0.3 —	0.6 0.6 0.3
イ 列車・電車事故（踏切事故を含む）	8.5 8.3 10.1	25.6 25.8 24.6	57.0 57.0 57.1	7.7 7.8 7.7	0.5 0.5 0.3	0.7 0.8 0.3
ウ 新幹線事故	5.5 5.0 8.6	14.9 15.0 14.5	54.6 54.5 55.3	22.6 23.1 19.8	1.0 0.9 1.5	1.3 1.5 0.3
エ 大型航空機事故	16.8 16.5 18.6	28.4 29.0 24.6	44.8 45.1 43.2	8.0 7.6 10.4	0.7 0.6 1.2	1.3 1.1 2.1
オ エイズ	30.3 30.4 30.2	30.2 30.5 28.1	29.7 29.5 31.1	7.9 7.8 8.6	0.9 0.8 1.5	1.0 1.1 0.6
カ 原子力発電事故	24.3 23.5 29.0	28.5 28.6 27.8	38.2 39.0 33.4	7.4 7.3 8.0	0.7 0.8 0.6	0.9 0.9 1.2
キ 身近な環境破壊	31.1 31.3 29.9	38.4 39.0 34.9	26.0 25.1 31.1	2.9 2.9 3.0	0.8 0.8 0.9	0.9 1.0 0.3
ク 地球規模の環境破壊	39.9 40.3 37.9	34.7 35.5 29.9	21.1 19.8 29.0	2.8 2.9 2.1	0.8 0.9 0.6	0.7 0.8 0.6

問24 次にあげるのは、航空会社2社の旅客機の安全性についてのコメントです。

A社、B社それぞれのコメントについて「まったく共感できない」は0点、「完全に共感できる」を10点として、0点から10点の間で点数をつけてください。

A社：わが社の飛行機はこれまで、墜落等の大きな事故を起こしたことがありません。 この実績が物語るように、わが社の飛行機は絶対に安全です。												
0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	
30.7	3.4	8.4	10.4	4.3	22.8	5.0	5.8	4.8	1.5	1.5	1.5	
30.8	3.3	8.5	10.3	4.3	22.9	5.0	5.8	4.8	1.5	1.6	1.5	
30.5	4.1	8.0	10.9	4.4	22.2	4.7	5.9	5.3	1.5	0.6	1.8	

平均
3.24
3.25
3.19 点

B社：飛行機事故がひとたび起きれば、大変なことは重々承知しています。 わが社では、絶対事故が起きないように細心の注意を払い、万全の努力をしています。												
0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	
3.3	0.7	1.3	2.5	1.9	16.8	6.2	13.3	24.0	6.6	21.8	1.5	
3.5	0.8	1.4	2.5	2.0	16.6	6.3	13.4	24.3	6.5	21.4	1.5	
2.4	0.6	1.2	2.4	1.2	18.0	5.9	12.7	22.2	7.1	24.6	1.8	

平均
7.13
7.10
7.30 点

問25 つぎにわが国の伝統的文化をいくつかあげてみました。それぞれについて、「誇りに感じる」、「なくしてしまいたい」、「どちらともいえない」、「無回答」のいずれかでお答えください。

	誇りに感じる	なくしてしまいたい	どちらともいえない	無回答
ア 勤勉	59.1 59.8 55.3	5.8 6.1 3.6	33.6 32.6 39.3	1.5 1.5 1.8
イ 中庸(ちゅうよう)	22.3 21.9 24.6	12.7 13.5 8.3	60.3 60.0 62.1	4.7 4.6 5.0
ウ 寛容	45.3 44.5 50.3	4.2 4.4 3.3	48.0 48.8 43.5	2.5 2.4 3.0
エ 譲りあいの気持	66.5 65.8 70.7	3.6 3.8 2.7	28.0 28.6 24.6	1.9 1.9 2.1
オ 礼儀を重んじる	75.7 76.5 71.0	2.9 3.0 2.1	19.8 19.0 24.6	1.6 1.5 2.4
カ 子孫繁栄	48.0 46.9 54.4	4.2 4.4 3.0	46.0 46.9 40.5	1.9 1.9 2.1
キ 和	74.9 74.4 77.8	2.1 2.3 1.2	21.6 21.9 19.8	1.5 1.5 1.2
ク 道徳心	71.6 71.6 71.3	2.7 2.8 2.7	24.1 24.1 24.0	1.6 1.5 2.1
ケ 分別(ふんべつ)	59.6 59.1 62.7	4.0 4.1 3.3	34.3 34.8 31.7	2.1 2.0 2.4

問26 下の表にあるA「雪男」からL「鬼」まで、1つ1つについて、あなたはどんな感じを持ちますか。

1～8の言葉をよくごらんになって、A「雪男」からL「鬼」まで、それぞれについて、あなたの気持ちに
もっともピッタリする言葉を1～8の中から1つずつ選んで、その番号に○をして下さい。

	1 つまらない	2 あつてほしい いてほしい	3 いる・ある	4 おそろしい こわい	5 あつてほしくない いてほしくない	6 おもしろい たのしい	7 ばかばかしい いない・ない	8 おそろしくない こわくない	無回答
A 雪 男	16.0 15.8 17.2	14.9 15.6 10.4	4.2 4.1 4.7	5.3 5.1 6.5	9.6 9.6 9.8	19.3 19.6 17.5	24.9 24.3 28.4	3.7 4.1 1.2	2.1 1.8 4.4
B ネッシー	10.7 10.4 12.4	33.9 35.3 25.7	7.8 7.9 7.4	1.1 0.8 3.3	3.5 3.1 5.9	21.7 22.4 17.8	16.3 15.5 20.7	2.0 2.0 2.1	3.0 2.8 4.7
C 空飛ぶ円盤・宇宙人	7.1 6.9 8.3	20.4 21.0 16.6	27.2 28.5 19.8	4.9 4.9 5.0	8.8 8.5 10.4	16.5 16.5 16.3	11.0 9.9 17.5	1.1 1.1 1.2	3.1 2.8 5.0
D 幽霊・亡霊	7.4 7.3 8.3	3.4 3.5 2.7	19.7 20.1 17.2	27.3 27.4 26.6	18.1 17.6 20.7	2.3 2.4 2.1	17.4 17.4 17.5	2.0 2.3 0.3	2.5 2.1 4.7
E カッパ	11.0 11.0 11.2	11.1 11.6 8.3	3.3 3.1 4.1	2.9 2.9 3.3	6.9 6.3 10.7	29.6 30.3 25.4	29.5 29.3 30.8	2.3 2.4 2.1	3.4 3.3 4.1
F 妖 怪	12.3 12.1 13.3	4.8 5.1 3.0	2.0 2.1 1.5	13.8 13.8 13.9	16.9 16.6 18.3	10.5 10.9 8.0	35.1 35.1 34.6	1.5 1.6 0.9	3.2 2.6 6.5
G 超能力・念力	9.4 9.1 11.2	19.1 19.1 18.6	35.4 36.6 27.8	2.3 2.1 3.6	2.7 2.5 4.1	15.8 16.0 14.8	11.9 11.5 14.2	1.0 1.0 0.9	2.4 2.0 4.7
H 人のたたき	8.1 8.0 8.9	1.2 1.1 1.5	16.2 16.5 14.2	27.1 27.1 26.6	29.3 29.1 30.5	0.3 0.3 0.9	14.6 14.9 12.7	0.6 0.6 0.3	2.7 2.4 4.4
I 人をのろい殺すなどの怨霊	7.8 8.0 6.8	1.3 1.4 1.2	8.5 8.5 8.3	28.0 28.1 27.2	34.6 34.5 35.2	0.4 0.4 0.9	16.8 17.0 15.7	0.4 0.4 0.9	2.1 1.8 3.8
J 過去や未来へ行けるタイムマシン ...	7.4 7.3 8.0	37.5 38.3 32.8	1.4 1.5 0.9	1.5 1.3 3.0	8.3 8.6 6.2	30.1 30.4 28.4	11.1 10.3 16.0	0.2 0.3 —	2.6 2.3 4.7
K 龍	10.1 9.9 11.2	16.6 17.8 9.8	3.9 4.1 2.4	6.7 6.6 6.8	9.2 8.5 13.6	17.8 17.9 17.2	29.0 28.8 30.2	4.2 4.3 4.1	2.6 2.3 4.7
L 鬼	10.8 10.5 12.7	6.5 7.1 3.0	4.0 4.4 2.1	10.7 10.5 11.8	17.0 16.4 21.0	15.3 15.9 11.8	30.0 29.0 31.7	3.5 3.8 2.1	2.1 1.8 3.8

問27 あなたは、次にあげるような事柄がふだん気になりますか、それとも気になりませんか。

アから順にそれぞれについてお答えください。

	たい へん	気 になる	す こし	気 になる	ぜん ぜん	気 にならない	無 回 答
ア 仏滅の日に結婚式をあげる	26.7 26.1 30.2	47.5 47.0 50.6	24.7 25.9 18.0	1.0 1.0 1.2			
イ 友引の日に葬式をする	36.6 36.4 37.9	45.2 45.1 45.9	17.0 17.4 14.5	1.2 1.1 1.8			
ウ 悪い方角に移転する	30.2 29.4 35.2	44.5 44.1 46.7	23.9 25.1 16.6	1.4 1.4 1.5			
エ 命名するときの字画の数	21.5 21.1 24.0	44.0 43.3 48.2	33.1 34.4 25.7	1.4 1.3 2.1			
オ 三隣亡の日に家を建てる	29.4 27.9 38.8	45.8 46.3 43.2	23.3 24.6 15.7	1.4 1.3 2.4			
カ いやな夢をみる	15.7 15.9 14.8	57.4 57.5 56.5	25.4 25.3 26.6	1.5 1.4 2.1			
キ 北に頭をむけて寝る	20.7 20.5 21.9	39.1 38.0 45.9	38.8 40.1 31.1	1.3 1.4 1.2			
ク 葬式から帰った時に塩をまくことを忘れた	12.3 12.4 12.1	44.3 44.3 44.4	42.4 42.4 42.3	1.0 1.0 1.2			

私達が社会生活をしていく上で、これからはエネルギー関連の問題は避けて通れないと思います。
以下エネルギー関連のことについておたずねしますので、あなたのお考えをおきかせください。

問28 最近はまだエネルギーの問題が話題になることがしばしばあります。

あなたご自身は、このことは重要な問題だと思いますか。

1 非常に重要である	43.5	43.8	42.3	4 重要ではない	0.1	0.1	—
2 重要である	49.6	49.8	48.5	5 その他	0.3	0.3	0.3
3 あまり重要ではない	6.1	5.8	8.3	無回答	0.4	0.4	0.6

問29 現在の日本の発電能力は十分だと思いますか、それとも不足していると思いますか。

1 十分	13.2	13.9	9.5	4 やや不足	31.0	30.6	33.1
2 やや十分	14.3	14.3	14.8	5 不足	8.3	8.0	9.8
3 ちょうどよいくらい	32.1	32.5	29.9	無回答	1.1	0.8	3.0

問30 電力の供給をふやせば、経済のゆとりや快適な生活ができるが、公害や環境汚染、自然破壊がそれに伴います。

電力の供給をふやさなければ、公害や環境汚染、自然破壊を抑えられますが、経済力が低下し生活の不便を我慢しなければならなくなります。この点についてあなたのお考えをおきかせください。

ここにある5枚のシールを、あなたの気持ちに応じてA、B 2つの意見にふりわけ、下の枠内にはりつけてください。

A ある程度の公害や環境汚染・自然破壊が伴うことがあっても、経済のゆとりや快適な生活のため、電力供給をふやす。

B 公害や環境汚染・自然破壊を抑えるため、経済力が低下し生活の不便を我慢しなければならなくなるとしても、電力供給をふやさない。

平均 2.18 2.16 2.33		平均 2.76 2.78 2.64	
0 個	1 個	2 個	3 個
9.3	17.3	33.0	27.9
10.0	17.6	32.9	26.9
5.3	15.4	33.4	34.0
	4 個	5 個	無回答
	7.7	3.7	1.2
	7.5	3.9	1.3
	8.6	2.4	0.9

問31 現在の日本の電力はどのような手段によるものが一番多いと思いますか。（お答えは1つだけ）

1 火力発電	35.4	35.9	32.2	4 太陽、風力、波力、地熱等の自然エネルギー発電	4.9	4.8	5.6
2 水力発電	23.7	23.8	23.1	5 その他	0.2	0.1	0.6
3 原子力発電	33.1	33.0	33.4	無回答	2.9	2.5	5.0

問32 それぞれの発電方法には、次のような長所・短所があるといわれています。

仮にあなたが電力会社の社長さんだとしたら、これからの日本の発電は、どの方法を主力にするのがよいとお考えですか。

最もよいと思う発電方法を1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。

	長 所	短 所
1 火力発電 4.6 4.9 3.3	・建設コストが安い	・運転コストが高い ・石油資源の不足を招く ・CO ₂ の排出量が多く、環境を汚染 ・燃料の安定確保の保証がない
2 水力発電 14.1 13.4 18.3	・運転コストが安い ・安定供給が可能	・建設コストが高い ・建設のための自然環境破壊が大きい
3 原子力発電 18.8 19.4 15.7	・運転コストが安い ・資源の節約可能 （燃料の再利用可、石油資源節約） ・安定供給が可能 ・エネルギー密度が高い	・建設コストが高い ・万一放射能放出事故が起きた場合、被害が大きい ・放射線管理が必要である
4 太陽光発電 30.0 30.3 28.4	・環境への影響が少ない	・エネルギー密度が低いのでコストが高い ・供給が不安定
5 風力発電 0.9 1.0 —	・環境への影響が少ない	・エネルギー密度が低いのでコストが高い ・供給が不安定 ・騒音・電波障害の恐れがある
6 燃料電池発電 2.9 3.1 1.8	・環境への影響が少ない ・排熱利用により、資源の節約が可能	・コストが高い ・設備寿命が短い
7 波力発電 1.5 1.5 1.5	・環境への影響が少ない	・エネルギー密度が低いのでコストが高い ・供給が不安定 ・海生物付着による機能低下
8 地熱発電 1.3 1.4 1.2	・自然エネルギー利用により、資源の節約が可能	・地中の有害物質（シリカ、ガス等）が噴き出す恐れがある ・自然の景観を損なう ・立地上の制約あり（地域的に偏っている）

9 その他（ ）

1.5 1.5 1.5

10 わからない

23.0 22.3 27.5

無回答

1.3 1.4 0.9

エネルギー問題では、原子力発電が大きくクローズアップされています。
 以下このことについておたずねしますので、あなたのお考えをおきかせください。

問33 あなたは、原子力発電の方法や長所・短所など、原子力発電について知っているほうだと思いますか、知らないほうだと思いますか。

1 知っているほうだと思う	15.0	15.3	13.3
2 知らないほうだと思う	65.3	65.0	66.9
3 どちらともいえない	19.3	19.4	18.9
無回答	0.4	0.4	0.9

問34 あなたは原子力発電についてどんなことをもっと知りたいと思いますか。
 知りたいことをつぎの中からいくつでも選んでその番号に○をつけてください。

1 メカニズム・しくみ	30.3	31.0	26.0
2 必要性	28.9	29.6	24.6
3 経済性	14.8	15.0	13.6
4 安全性	74.1	73.9	75.7
5 過去の故障・事故についての情報	24.7	24.1	27.8
6 事故が発生した場合の防災体制	62.4	63.4	56.8
7 放射能の影響	60.3	60.3	60.4
8 使用済み燃料や廃棄物の処理・処分対策	57.3	58.8	48.5
9 原爆との違い	20.8	21.5	16.9
10 発電所所在地の地域振興	12.2	12.3	11.8
11 その他	1.0	1.0	1.2
12 特に知りたいことはない	6.5	6.6	5.9

問35 原子力発電の有益・必要性、反対に原子力発電の無益（有害）・不必要性についての代表的意見を次にあげました。

有益・必要性、無益（有害）・不必要性のそれぞれについて、あなたが納得できるものを選んでその番号に○をつけてください。

その他あなたが考えになっていることがあれば、「その他（ ）」欄にご記入ください。

ア. 有益・必要性についての意見で納得できるものをいくつか選んで、その番号に○をつけてください。

1 発電コストが他の発電手段に比べて安く、価格変動が少ない。	30.2	30.4	29.0
2 発電を原子力で行うことにより、大切な石油資源を節約できる。	42.7	43.0	40.8
3 使用済み燃料を再処理することにより、新たな燃料が得られるので準国産エネルギーを確保できる。	26.1	26.8	22.5
4 高速増殖炉が開発されれば半永久的な電力用エネルギーが確保できる。	24.2	24.1	24.9
5 発電のエネルギー源を増やしバランスをよくすることで、わが国の電力供給の安定化に役立つ。	28.4	28.4	28.4
6 火力発電を減らすことができるので、大気汚染問題を抑制でき、地球環境保護に貢献している。	24.3	24.3	24.3
7 わずかな燃料で長時間にわたり発電できたり、燃料の備蓄が容易なので、電力供給の安定化に役立つ。	33.2	33.6	30.8
8 今後の発展途上国を中心にした世界的なエネルギー需要の増大を考えると原子力発電は欠かせない。	20.2	20.1	20.7
9 発電所所在地域の振興に役立っている。	4.3	4.3	4.4
10 その他	2.7	2.5	3.6

イ. 無益（有害）・不必要性についての意見で納得できるものをいくつか選んで、その番号に○をつけてください。

1 火力・水力発電に比べ、発電コストはそれほど安くない。	8.1	7.9	9.8
2 重油の代替にはなっても、ガソリンや灯油の節約にはならない。	11.1	11.1	11.2
3 廃棄物の処分・処理技術はまだ確立していない。	55.3	55.9	51.8
4 原子力以外の新しいエネルギーの開発に重点をおくべきである。	37.5	38.3	32.8
5 原子力発電がなくても、電力は十分供給できる。	6.7	6.6	7.4
6 放射能汚染の恐れがある。	69.6	69.8	68.9
7 原子力発電は世界的に廃止の傾向にある。	14.9	14.6	16.3
8 大事故の可能性はゼロではないし、起きた場合の被害が大きすぎる。	66.8	67.3	63.9
9 原子力発電の安全システムや国、企業等の安全確保努力に信頼がおけない。	31.8	32.6	27.2
10 発電所所在地域の振興にマイナスの影響がある。	8.9	8.5	11.5
11 その他	1.5	1.5	1.5

問36 原子力発電の安全確保に関するつぎのような説明を聞いたとき、あなたはどの程度納得できますか、納得できませんか。

ア 発電所周辺の人が、年間に受ける放射線量は、0.001ミリシーベルト以下です。これはX線検診1回で受ける放射線量の300分の1以下のレベルで安心です。

1 たいへん納得できる	5.5	5.6	4.4
2 少しは納得できる	34.2	34.4	33.4
3 あまり納得できない	36.9	37.3	34.6
4 まったく納得できない	7.8	7.8	8.3
5 どちらともいえない	14.9	14.3	18.9
無回答	0.7	0.8	0.3

イ 故障の早期発見、事故未然防止のため種々の方策がとられている。(定期検査、インターロック、フェイルセーフシステム等々)

1 たいへん納得できる	4.3	4.4	4.1
2 少しは納得できる	39.6	40.8	32.5
3 あまり納得できない	35.3	34.6	39.3
4 まったく納得できない	6.4	6.3	7.1
5 どちらともいえない	13.4	13.0	16.0
無回答	1.0	1.0	0.9

ウ 故障が発生しても、放射能漏れが起きないように多重防護施設など万全の方策がとられている。

1 たいへん納得できる	4.4	4.8	2.4
2 少しは納得できる	32.6	33.1	29.6
3 あまり納得できない	40.7	40.4	42.3
4 まったく納得できない	9.7	9.8	9.5
5 どちらともいえない	11.6	10.9	15.7
無回答	1.0	1.1	0.6

エ 事故につながるような恐れが少しでもあるときは、ただちに運転を停止するようにしているから安全性は十分保たれている。

1 たいへん納得できる	5.4	5.8	3.3
2 少しは納得できる	32.7	33.9	25.4
3 あまり納得できない	39.8	39.1	43.5
4 まったく納得できない	10.4	10.3	10.9
5 どちらともいえない	11.0	10.1	16.3
無回答	0.8	0.9	0.6

オ 発電施設は自然災害や戦争、犯罪などによる破壊から守られるよう堅固に作られ、また管理されている。

1 たいへん納得できる	4.4	4.8	2.4
2 少しは納得できる	25.5	26.1	21.6
3 あまり納得できない	41.8	41.3	45.3
4 まったく納得できない	14.0	14.4	11.8
5 どちらともいえない	13.3	12.5	17.8
無回答	1.0	1.0	1.2

カ 事故がひとたび起きれば大変なことは重々承知している。事故が絶対起きないよう万全の努力をしている。

1 たいへん納得できる	6.3	6.8	3.8
2 少しは納得できる	36.4	37.3	31.7
3 あまり納得できない	36.5	36.3	38.2
4 まったく納得できない	9.4	9.4	9.5
5 どちらともいえない	10.4	9.5	16.0
無回答	0.9	0.9	0.9

問37 原子力は安全だという話や記事を見聞きしたとき、あなたはどの程度共感できますか。

1 とても共感できる	2.7	2.9	1.5	4 まったく共感できない	7.5	7.5	7.7
2 すこし共感できる	28.3	28.5	26.9	5 その他	1.4	1.4	1.8
3 あまり共感できない	58.4	58.0	60.7	無回答	1.7	1.8	1.5

問38 人間は、原子力発電を人間や環境に悪い影響を与えないように上手に利用することができますか、そうは思いませんか。

1 できる	20.5	20.9	18.0	3 できない	14.5	14.6	13.9
2 どちらともいえない	64.5	64.0	67.2	無回答	0.6	0.5	0.9

問39 原子力発電を今後も開発利用していくべきだと思いますか、そうは思いませんか。

1 利用すべき	22.6	23.1	19.5	3 利用すべきでない	15.3	15.3	15.7
2 どちらともいえない	61.5	61.1	63.9	無回答	0.6	0.5	0.9

問40 原子力発電についていろいろおたずねしましたが、全体としてあなたのお考えに近いものをつぎの中から1つだけ選んでその番号に○をつけてください。

1 安全性には配慮する必要があるが、原子力発電を利用するのがよい	11.7	11.6	11.8
2 安全性は多少不安だが、現実的に考えれば原子力発電を利用するのやむをえない	55.9	56.4	53.3
3 どんنانにコストが高く、また環境破壊が伴うにしても、原子力発電より安全な発電に頼る方がよい	17.7	17.5	18.6
4 不便な生活に甘んじて、原子力発電は利用すべきではない	11.5	11.8	10.4
無回答	3.2	2.8	5.9

問41 チェルノブイリ原子力発電所事故のことを覚えていますか。

1 よく覚えている	61.7	62.9	54.4	3 きいたことがあるような気がする	6.5	6.3	8.0
2 すこし覚えている	26.1	25.8	28.4	4 覚えていない	5.3	4.8	8.3
				無回答	0.4	0.4	0.9

問42 チェルノブイリ原子力発電所事故のような大きな事故の起きる主な原因はどこにあると思いますか。
あなたが主な原因と思うものを次の中からいくつでも選んで、その番号に○をつけてください。

1 機器システムの故障	57.6	57.8	56.5	4 運転マニュアル等の不備	25.5	26.1	21.6
2 運転員のミス(人為的ミス)	40.5	41.3	36.4	5 その他	5.0	5.4	2.7
3 管理体制の不備	70.7	72.0	63.3				

問43 チェルノブイリ原子力発電所事故のような大きな事故の影響として、あなたが最も不安に思っていることを次の中から1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

1 発電所内や周辺の人々に死傷事故が起きること	7.3	6.9	9.8
2 発電所内や周辺の人々に安全基準値を超える放射線被爆が起きること	12.3	12.4	11.8
3 放射能汚染は周辺地域にとどまらず、世界の他の地域にまで及ぶこと	34.4	35.0	30.8
4 放射能汚染の影響は私達だけにとどまらず子や孫の代にまで及ぶこと	43.8	43.9	43.2
5 その他	0.8	0.9	0.3
無回答	1.5	1.0	4.1

〔話は変わりますが、いますこしご意見をおきかせください。〕

問44 あなたは最近の日本の政治に関心がありますか。

1 非常に関心がある	18.8	18.9	18.0	4 まったく関心がない	6.2	6.3	5.6
2 まあ関心がある	43.0	42.4	46.4	5 その他	0.2	0.3	—
3 あまり関心がない	31.2	31.6	29.0	無回答	0.7	0.6	0.9

問45 (1) あなたは「民主主義」について、どう思いますか。
次のうち、あなたの意見に一番近いのはどれですか。

1 よい	46.9	47.4	44.1	4 その他	1.3	1.3	1.5
2 時と場合による	49.0	48.5	51.8	無回答	0.9	0.8	1.8
3 よくない	1.9	2.1	0.9				

(2) では、「資本主義」についてはどうですか。

1 よい	26.9	27.8	21.9	4 その他	0.8	0.6	2.1
2 時と場合による	59.7	59.5	60.7	無回答	1.2	0.9	3.0
3 よくない	11.4	11.3	12.4				

(3) では、「社会主義」についてはどうですか。

1 よい	3.3	3.3	3.3	4 その他	1.4	1.1	3.3
2 時と場合による	56.1	56.3	55.3	無回答	2.0	1.8	3.6
3 よくない	37.2	37.6	34.6				

問46 あなたは何党を支持しますか。

1 自 民 党	26.8	26.0	31.7	6 社 民 連	0.3	0.1	1.5
2 社 会 党	5.0	4.6	7.1	7 日 本 新 党	3.1	3.1	3.0
3 公 明 党	4.7	5.0	2.7	8 その他の政党	0.8	0.9	0.6
4 民 社 党	2.0	2.0	2.1	9 支持政党なし	52.2	53.0	47.3
5 共 産 党	2.1	2.4	0.6	無回答	3.0	2.9	3.6

問47 たいていの人、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも自分のことだけ考えていると思いますか。

1 他人の役にたとうとしている	24.3	23.5	28.7	3 その他	10.2	10.3	9.8
2 自分のことだけ考えている	63.7	64.5	58.9	無回答	1.9	1.8	2.7

問48 他人は、機会があれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それともそんなことはないと思いますか。

1 他人は機会があればあなたを利用しようとしていると思う	30.5	29.8	34.9				
2 そんなことはないと思う	61.7	62.8	55.6				
3 その他	5.5	5.5	5.6				
無回答	2.3	2.0	3.8				

問49 たいていの人、人は信頼できると思いますか、それとも、常に用心した方がよいと思いますか。

1 信頼できると思う	38.8	38.8	39.3	3 その他	14.8	15.3	12.4
2 常に用心した方がよい	44.1	44.0	44.4	無回答	2.3	2.0	3.8

問50 公の問題は影響力も経験もある人に任せるべきだと思いますか、それともそのような問題は、決定される前に人々に議論すべきだと思いますか。

1 影響力も経験もある人に任せるべきだ	20.2	19.6	23.4
2 人々に議論すべきだ	77.3	77.8	74.6
無回答	2.5	2.6	2.1

問51 リーダーとして次のどちらの人がいいですか。

1 年輩で尊敬される人	26.2	25.6	29.3
2 若くて有能な人	42.5	42.5	42.6
3 どちらでもよい	29.8	30.3	26.9
無回答	1.6	1.6	1.2

問52 職場の中でのよいリーダーはどんな資質を持っているべきでしょうか。

最も重要なもの3つと、最も重要でないもの3つを、次の中から選んでください。

最も重要なもの3つに○	最も重要でないもの3つに○
1 技術的にすぐれていること 20.6 19.8 25.7	1 技術的にすぐれていること 14.1 13.8 16.0
2 部下を公平に扱うこと 40.2 40.3 40.2	2 部下を公平に扱うこと 6.9 7.3 4.7
3 部下に尊敬され、好かれていること 42.3 42.0 43.8	3 部下に尊敬され、好かれていること 3.6 3.3 5.9
4 真剣に仕事に取り組むこと 49.5 49.4 50.3	4 真剣に仕事に取り組むこと 2.1 2.0 2.4
5 人間関係がよい、顔が広いこと 12.9 13.5 9.5	5 人間関係がよい、顔が広いこと 22.2 22.3 22.2
6 仕事仲間に誠心誠意、接すること 33.4 33.0 35.5	6 仕事仲間に誠心誠意、接すること 4.4 4.8 2.1
7 決断力がある、断固としていること 21.5 21.3 23.1	7 決断力がある、断固としていること 14.2 14.3 14.2
8 判断力がすぐれていること 70.7 72.3 61.8	8 判断力がすぐれていること 1.3 1.3 1.5
9 部下に利益をもたらすこと 3.4 3.3 4.4	9 部下に利益をもたらすこと 46.5 46.4 47.3
10 年功を積んでいること 1.2 1.3 0.9	10 年功を積んでいること 78.6 79.4 74.0
11 家柄のよいこと 0.3 0.3 0.6	11 家柄のよいこと 93.5 94.1 89.6

ご意見をおうかがいするのはこれで終わりですが、この結果を統計的に分析するために、あなたご自身やご家族のことについて少しおたずねします。

F 1 (性別) 1 男性 47.3 47.0 49.4 2 女性 52.7 53.0 50.6

F 2 (年齢) あなたのお年は満でいくつですか。年齢 歳

1 18~19歳	3.3	3.3	3.6	5 35~39歳	9.7	9.5	10.9	9 55~59歳	7.5	7.1	10.1
2 20~24歳	10.4	10.5	10.1	6 40~44歳	13.2	12.8	16.0	10 60~64歳	7.1	6.9	8.6
3 25~29歳	10.2	10.9	6.5	7 45~49歳	11.5	11.8	10.1	11 65~69歳	4.1	4.3	3.0
4 30~34歳	11.0	10.6	13.0	8 50~54歳	9.2	9.8	5.6	12 70歳以上	2.7	2.8	2.7

F 3 (学歴) あなたが最後に卒業された学校はどちらですか。(中退・在学中は卒業とみなします。)

1 小学校卒	0.9	0.8	2.1	4 大学卒・旧高専、旧大卒	32.2	33.1	26.6
2 中学校卒・旧高小卒	13.3	12.5	17.8	無回答	0.9	0.8	1.5
3 高校卒・旧中卒	52.8	52.9	52.1				

F 4 (本人の職業) あなたのご職業は何ですか。(具体的に記入して下の該当する項目に○をつけてください。)

1 農林漁業	0.8	0.4	3.3	8 農林漁業	0.5	0.3	1.8
2 商工サービス業	8.4	8.5	8.0	9 商工サービス業	2.1	2.1	2.1
3 自由業	2.9	2.9	3.3	10 自由業	1.0	1.0	1.2
4 管理職	6.2	6.3	5.9	11 主婦(無職)	22.2	22.8	19.2
5 専門・技術職	15.2	15.0	16.6	12 主婦(パートに出ている)	7.5	7.6	7.1
6 事務職	13.2	13.6	10.9	13 学生	5.5	5.1	7.4
7 労務職	7.8	7.8	8.0	14 その他の無職	5.7	6.0	4.1
				無回答	0.8	0.8	1.2

F 5 (世帯構成) お宅のご家族は、次のように分類した場合どれにあたりますか。

1 1人世帯	3.9	4.4	0.9	4 3世代世帯(親と子と孫)	17.3	15.4	28.7
2 1世代世帯(夫婦だけ)	15.7	16.4	11.8	5 祖父母と孫の世帯	0.6	0.5	1.5
3 2世代世帯(親と子)	60.4	61.4	54.4	6 その他の世帯	1.1	1.1	0.9
				無回答	1.0	0.9	1.8

F 6 (世帯主職業) あなたは世帯主ですか。

1 世帯主	41.3	41.9	38.2	2 世帯主でない	58.4	57.9	61.2
				無回答	0.3	0.3	0.6

世帯主のご職業をお知らせください。(具体的に記入して下の該当する項目に○をつけてください。)

1 農林漁業	2.3	1.1	9.2	8 農林漁業	0.3	—	1.8
2 商工サービス業	16.2	16.5	14.5	9 商工サービス業	0.4	0.4	0.3
3 自由業	6.2	6.4	5.3	10 自由業	0.2	0.1	0.9
4 管理職	14.6	14.6	14.5	11 主婦(無職)	1.5	1.5	1.5
5 専門・技術職	20.8	21.1	18.6	12 主婦(パートに出ている)	0.7	0.6	0.9
6 事務職	11.7	11.8	11.2	13 学生	0.3	0.3	0.3
7 労務職	13.8	14.4	10.4	14 その他の無職	8.7	8.9	7.4
				無回答	2.5	2.4	3.3

〔ご協力どうも有難うございました。〕